

学生・企業の接続において長期インターンシップ^o が与える効果についての検討会 調査報告

令和2年 3月

文部科学省学生・留学生課

1. 学生に対するアンケート調査結果
2. 大学に対するアンケート調査結果
3. まとめ

1. 学生に対するアンケート調査結果

2. 大学に対するアンケート調査結果

3. まとめ

1. 学生に対するアンケート調査結果

趣旨

学生・企業の接続において長期インターンシップが与える効果の検証を得るため、主に卒業・修了予定の大学4年生、大学院2年生を対象に、以下の要領で調査を実施。

1. 主な調査事項

【基本項目】

- 性別
- 学年
- 大学の種別
- 在籍学部等
- 大学所在地
- 職業観
- 就職活動の現在の状況
- 面接を受けた数
- 内定先
- 内定先の業界
- 内定先の企業規模
- 就職先における身分
- 内定が出た時期

【インターンシップ経験】

- 参加の有無
- 参加した数
- 参加した中で、最も長かった日数
- 4日未満のインターンシップへの参加の有無

【最も長いインターンシップの経験】

- 参加企業の規模
- インターンシップの形態
- インターンシップの目的、内容
- インターンシップの効果
- 参加の感想とその理由
- 当該企業への就職の有無

【インターンシップへの意見】

- 後輩へ薦めるか否か
- 上記の理由
- 参加したいインターンシップ
- 適切な実施時期
- 望ましいインターンシップの期間

2. 調査期間

令和2年2月3日（月）～2月29日（土）

3. 有効回答数

1,373人（うち、インターンシップの経験のある者 880人）

※調査に当たっては、国公立大学のうち、文部科学省と（独）日本学生支援機構が協力し、インターンシップの量的拡大・質的充実に向けた方策の一つとして実施している「大学等のインターンシップ届出制度」に登録を行っている大学を通じて、一大学当たり10名前後の学生に対してアンケート調査への協力を依頼し、当該学生が直接業者に回答する方法で実施。

調査項目の設計 (学生)

回答者属性の確認

1	性別	2	学年	3	学校種別	4	学部等分野	5	大学名	6	所在地
7	入試方法	8	職業観	9	現在の活動状況	10	就職活動の状況	11	応募企業数	12	面接数
13	就職予定	14	内定先企業の業界	14X	内定企業の規模	15	就職先の身分	16	内定時期		

参加の状況

参加した中で最長のインターンシップ

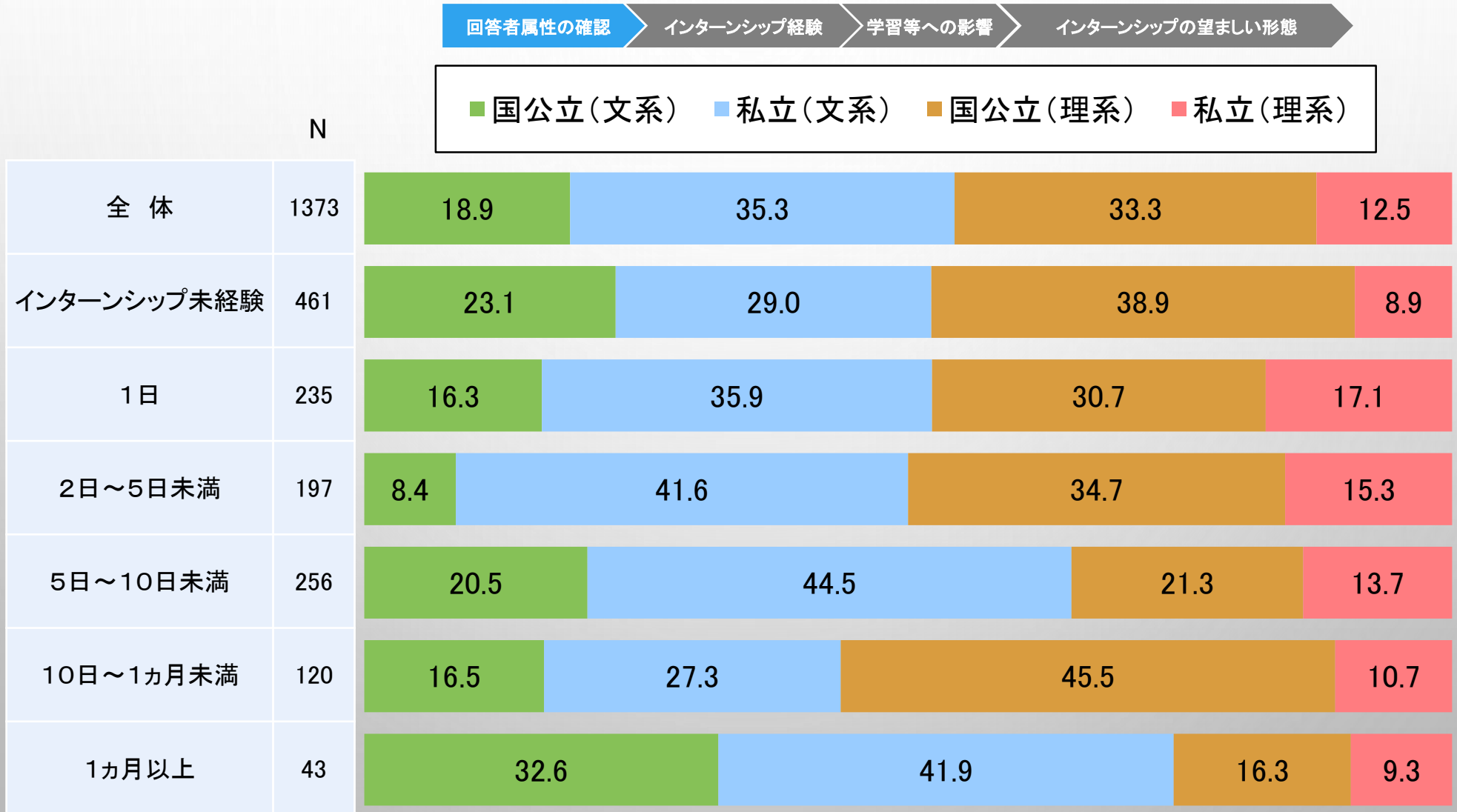
17	参加の有無	23	参加した企業の規模	28	参加目的	33	満足の理由
	無 : Q38へ	24	企業の所在地	29	インターンシップの内容	34	不満の理由
18	参加回数	25	インターンシップの場所	30	上記の中心的内容	35	インターンシップ企業の内定の有無
19	インターンシップ参加総日数	26	インターンシップ形態	31	学修行動の変化	36	上記の就職の有無
20	最長期間	27	参加時期	32	参加の感想	37	上記企業へ就職しなかった理由
	4日未満 : Q23へ						
21	他企業の4日未満に参加の有無						
22	長短の比較						

学生の望ましい形態のインターンシップ

38	後輩への推薦希望	40	参加したいインターンシップ	42	望ましい実施日数
39	薦める理由	41	望ましい実施時期	43	その他意見

最も長く経験したインターシップの期間と学科区分(文系・理系)の関係

- 回答者のうち約65%がインターンシップを経験している。
- 全体としては文系・理系で大きな偏りはないが、サンプル数の少ない一ヶ月以上のインターンシップ経験者は、本調査上は文系が多い。



最も長く経験したインターシップの期間と学部・大学院(文系・理系)の関係

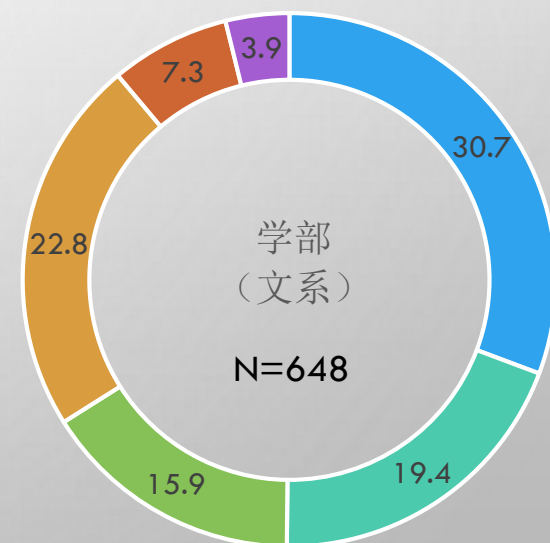
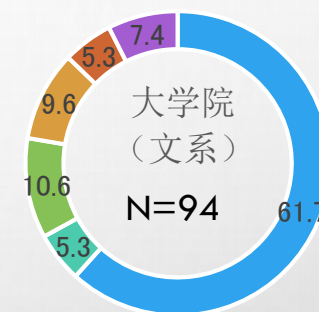
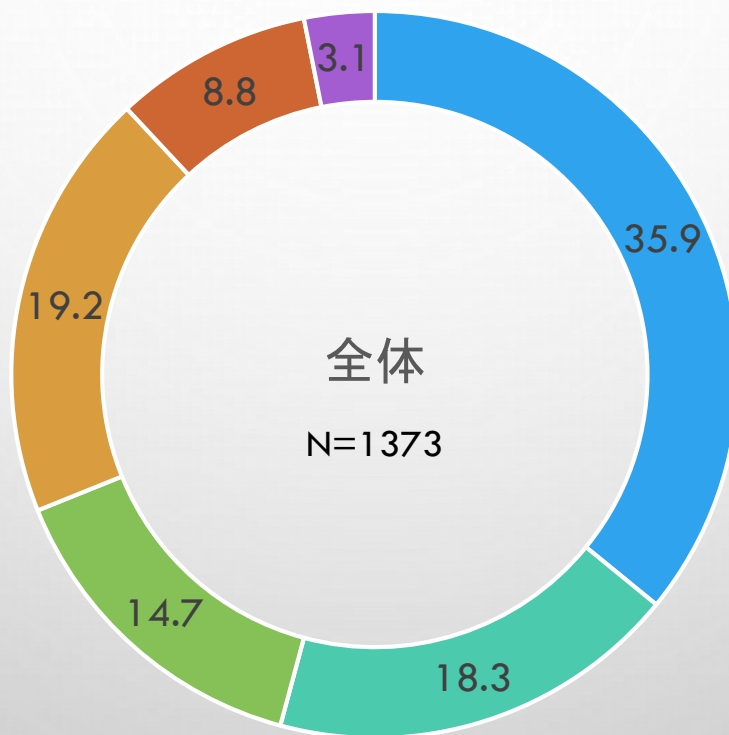
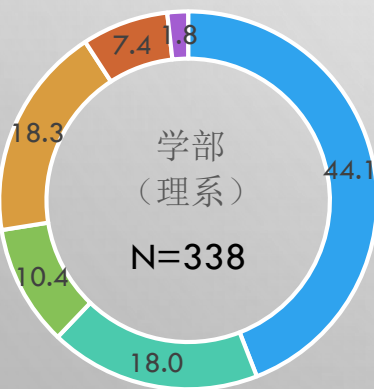
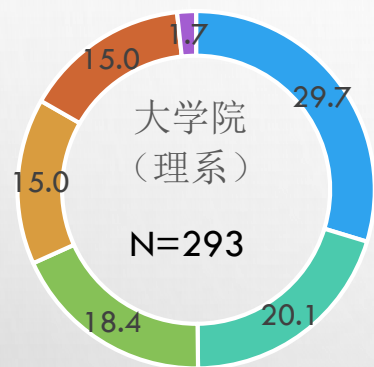
■ 理系の大学院生が最もインターンシップ経験をしている者の割合が多い。

回答者属性の確認

インターンシップ経験

学習等への影響

インターンシップの望ましい形態



- インターンシップ未経験者
- 1日
- 2日～5日未満
- 5日～10日未満
- 10日～1か月未満
- 1か月以上

回答者の通学している大学のキャンパス所在地の割合

■ 東京が3割を占めている。

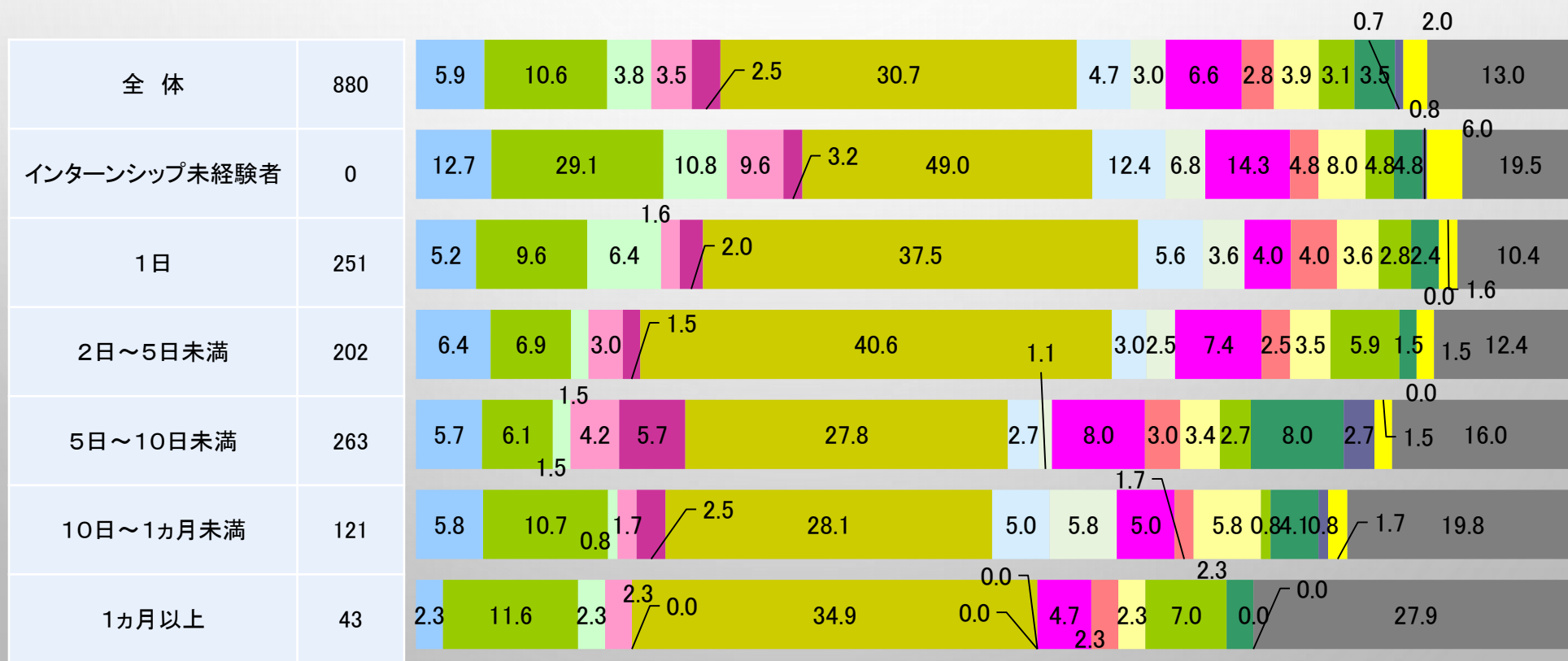
回答者属性の確認

インターンシップ経験

学習等への影響

入社後のキャリア観及び会社とのフィット

※回答数の上位15都道府県を掲載



最も長く経験したインターシップの実施形態

- 全体では企業主催によるインターシップの割合が高いが、企業主催でも1か月以上の長期のインターシップに取り組んでいる状況が見られた。
- 全体的には10日未満のインターシップへの参加率が高く、その中でも5日以上10日未満のインターシップに参加した学生が最も多かった。

回答者属性の確認

インターシップ経験

学習等への影響

インターシップの望ましい形態

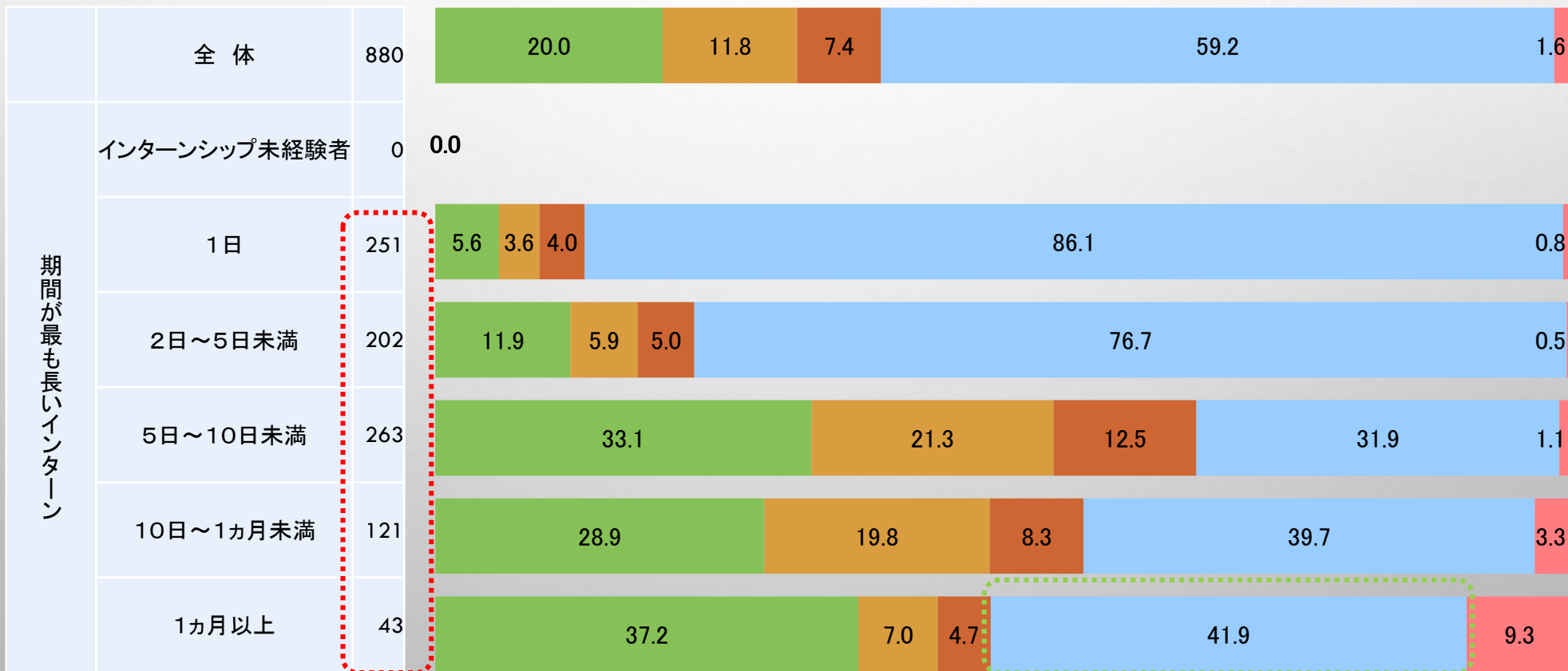
■ 正課

■ 正課外

■ 自治体等主催

■ 企業主催

■ その他



最も長く経験したインターシップの期間とインターンシップ実施地域の関係

■ 約半数が東京でインターンシップを行っている。

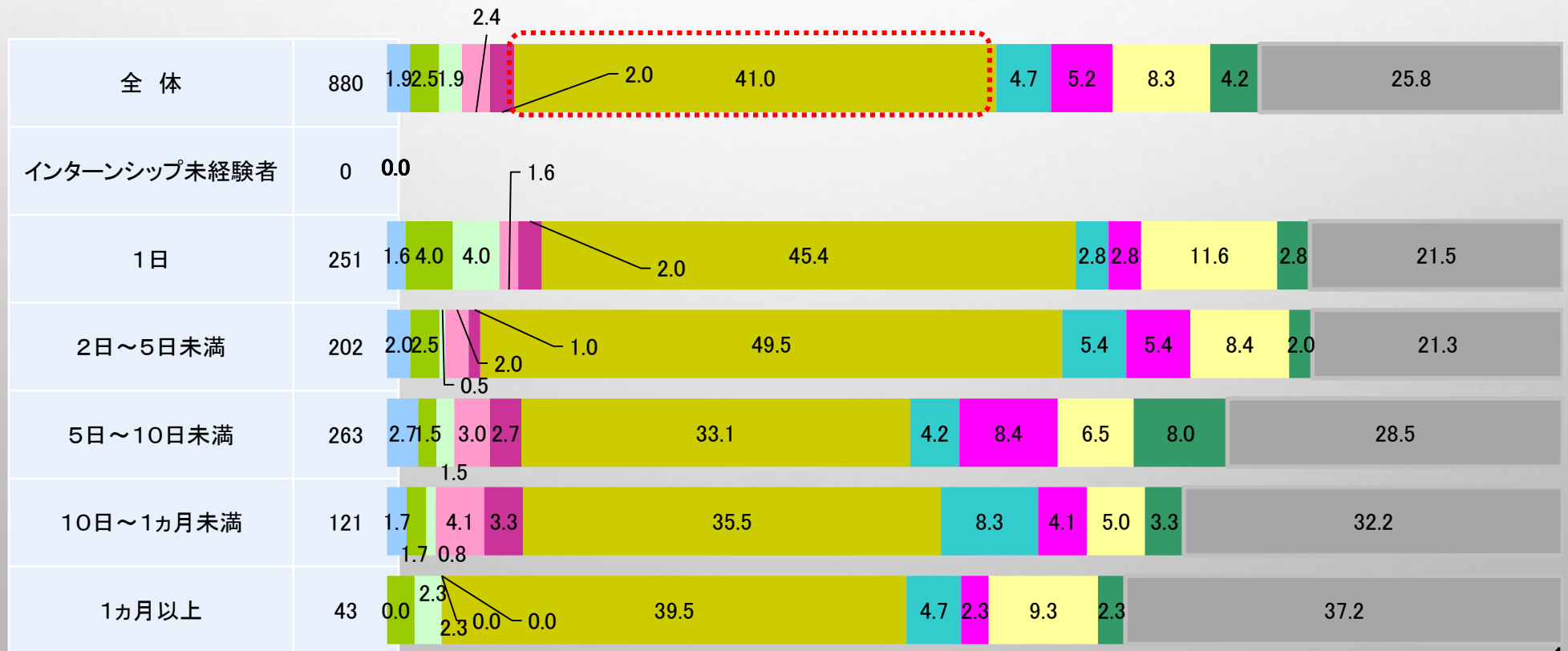
回答者属性の確認

インターンシップ経験

学習等への影響

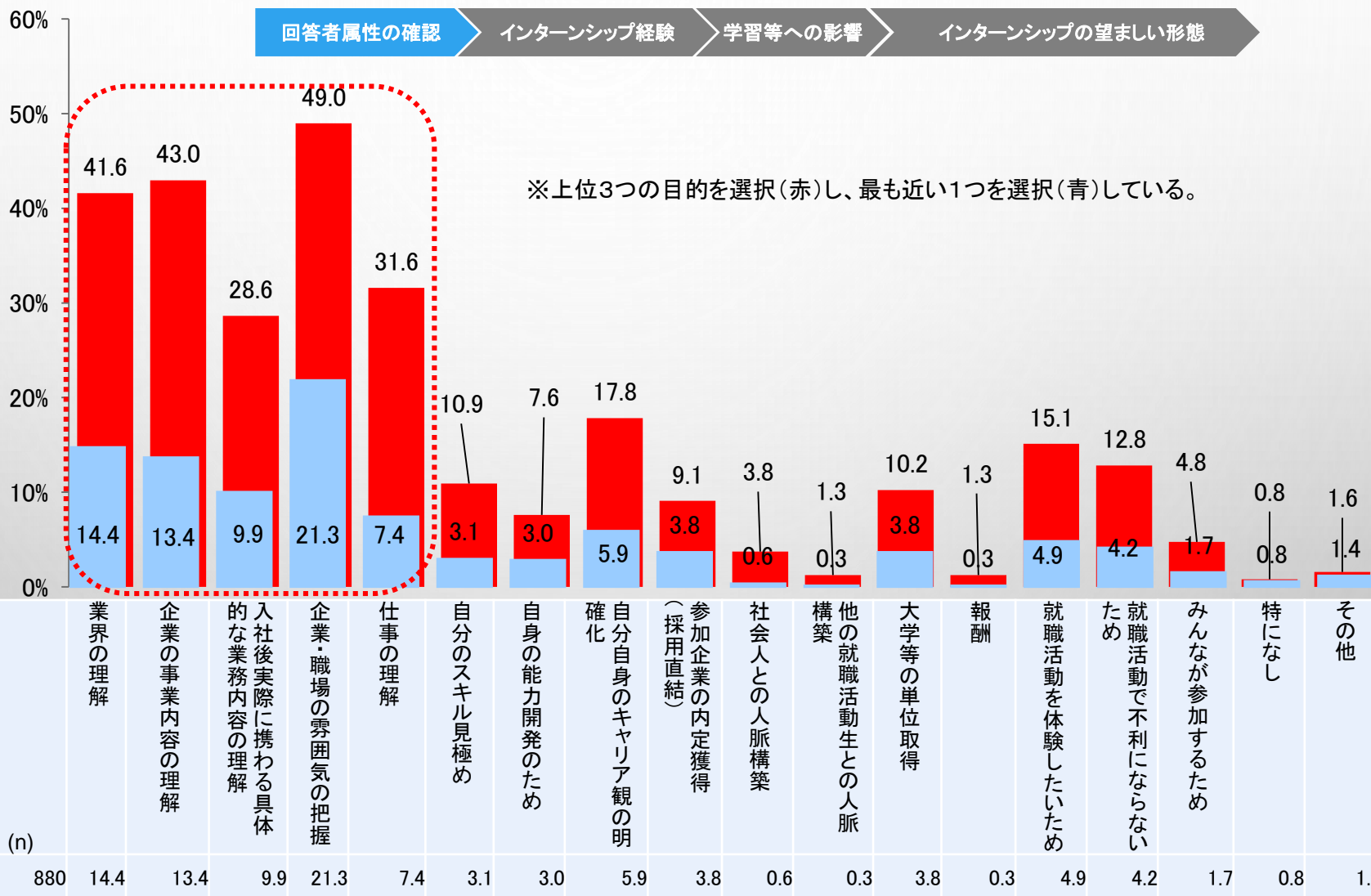
入社後のキャリア観及び会社とのフィット

※回答数の上位10都道府県を掲載



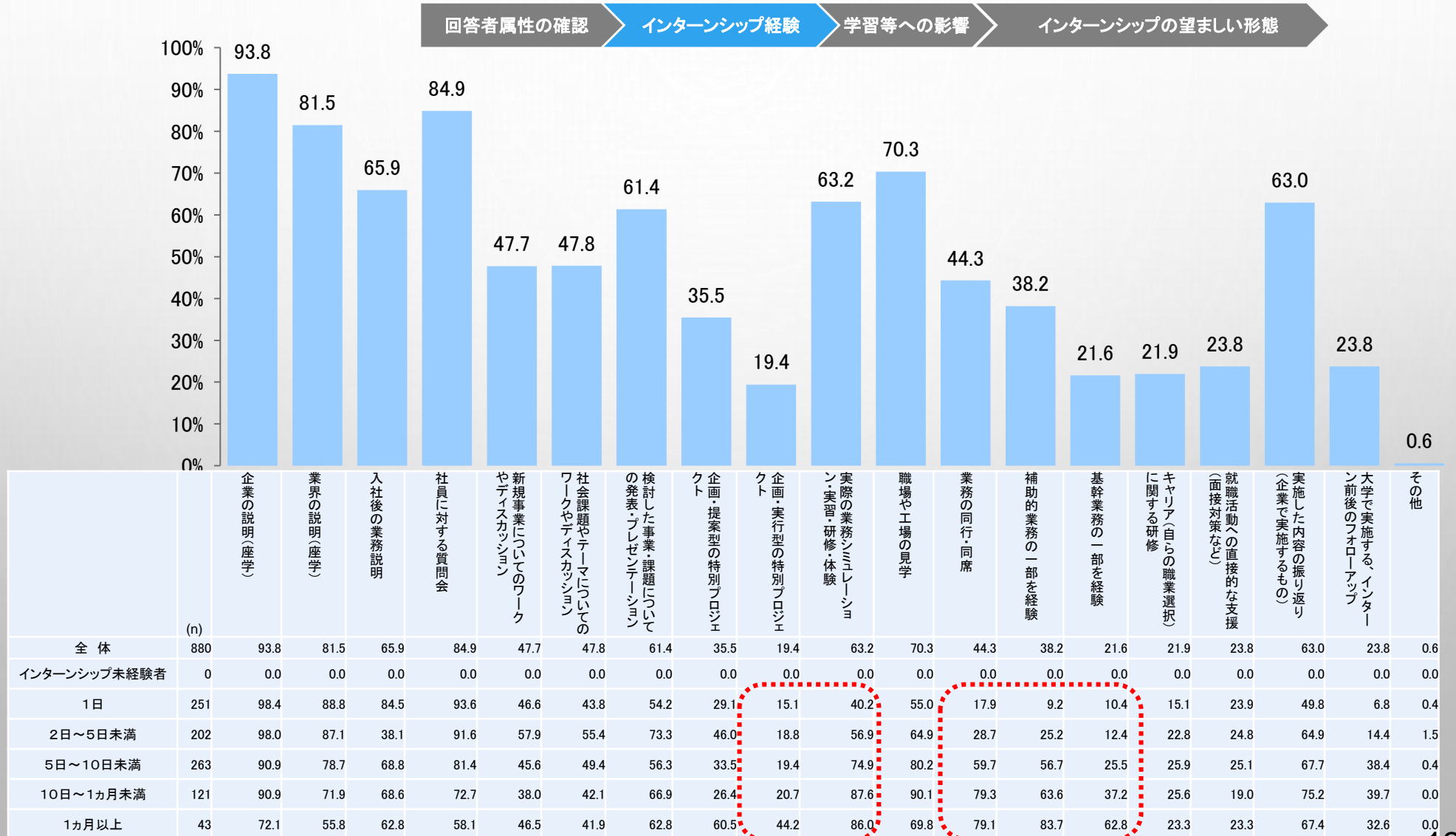
最も長く経験したインターシップの参加目的

■ 企業や業界を理解する目的でインターンシップに参加するものの割合が高い。



最も長く経験したインターシップで実施した内容

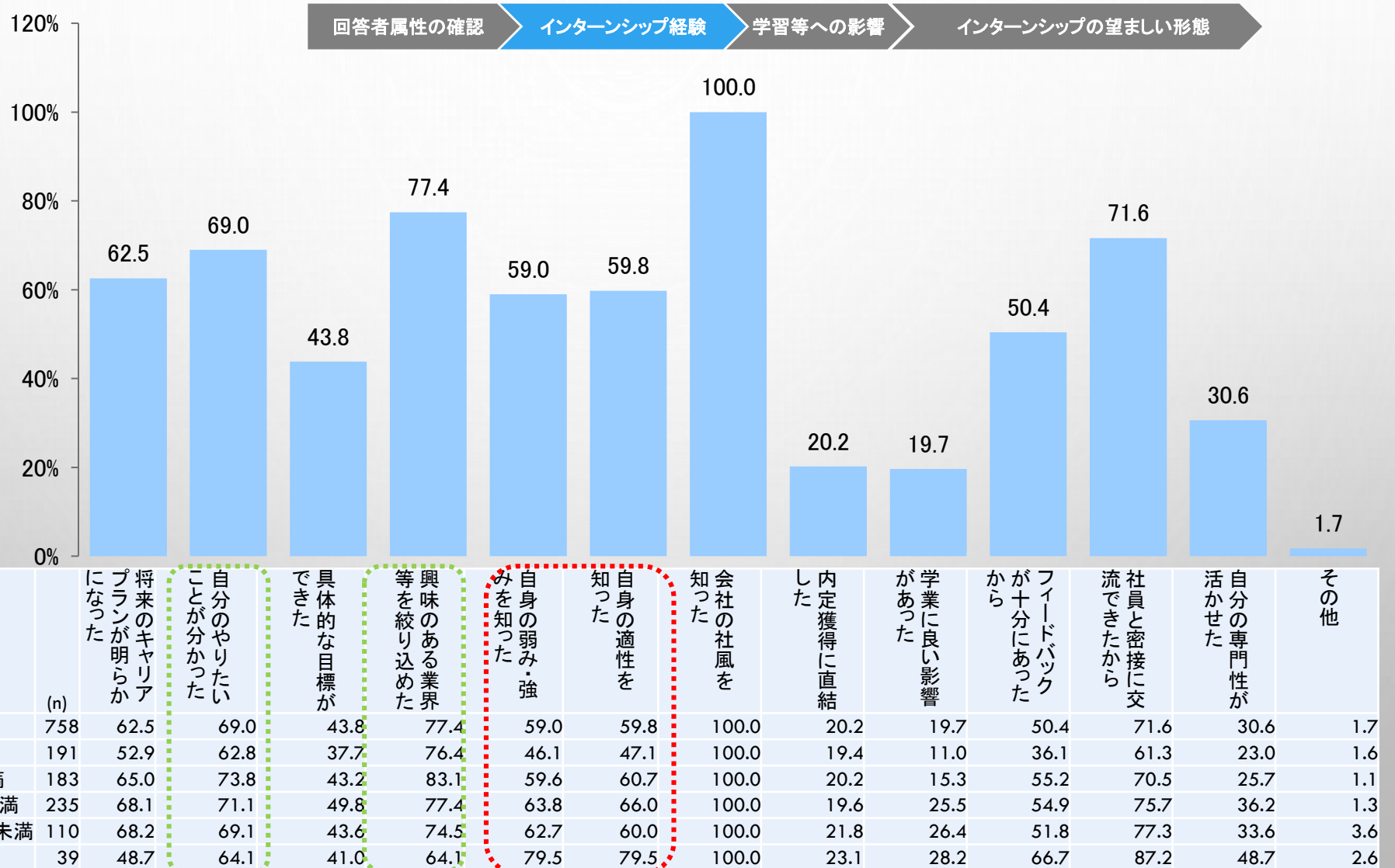
■ 参加期間が長くなるほど実際の業務の疑似体験や業務の補助に関する就業体験を経験できる傾向にある。



インターシップの良かった点

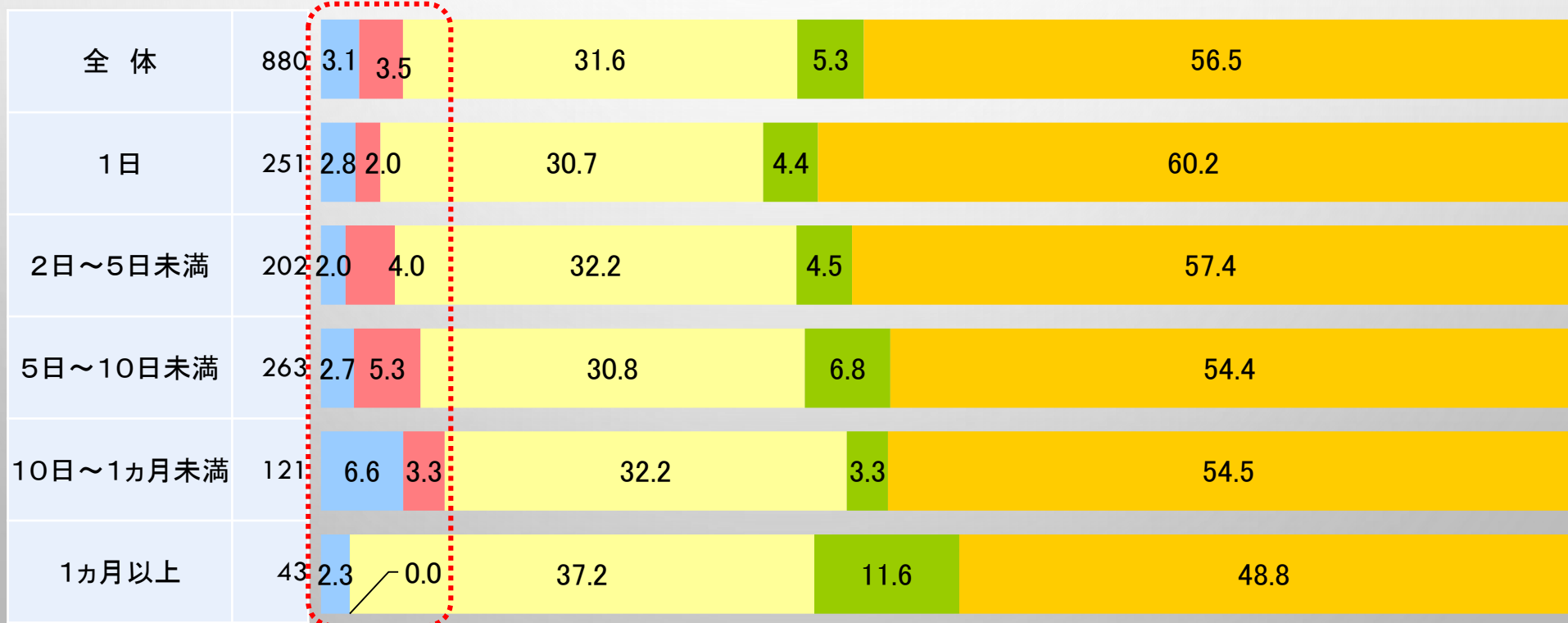
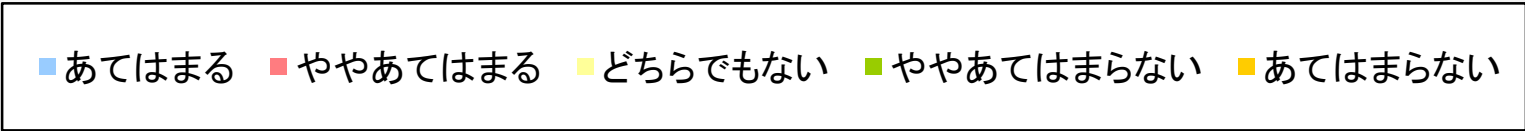
■自身がやりたいことや就きたい業界を絞りこむ上では、短期間の方が満足度が高い傾向にある。

■自身の強みや適性をする上では、期間が長くなるほど満足度が高い傾向にある。



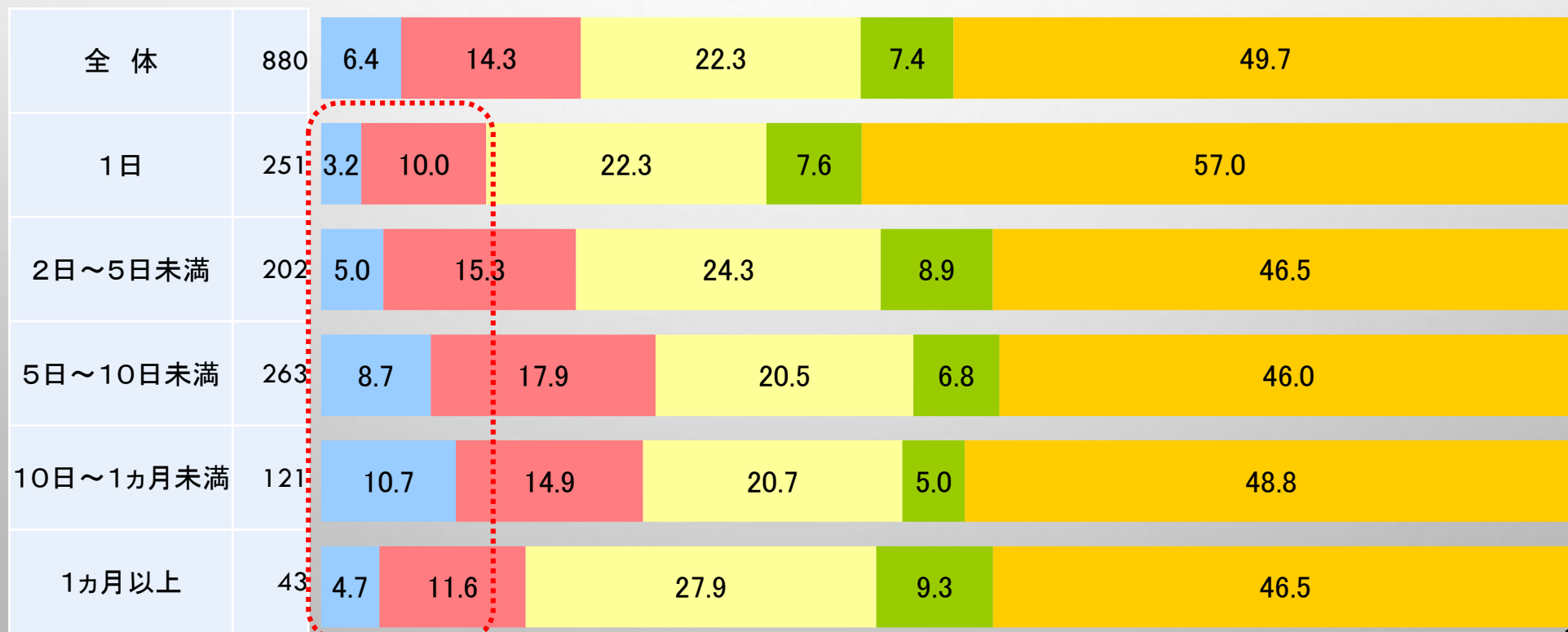
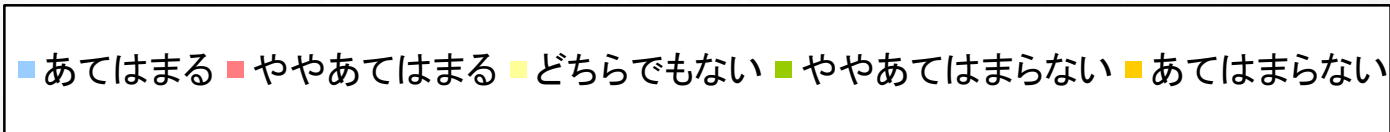
学修行動／授業出席日数の増加

■ インターンシップによる効果は薄いものの、その中でも、参加の期間が長くなるほど高い傾向はみられる。



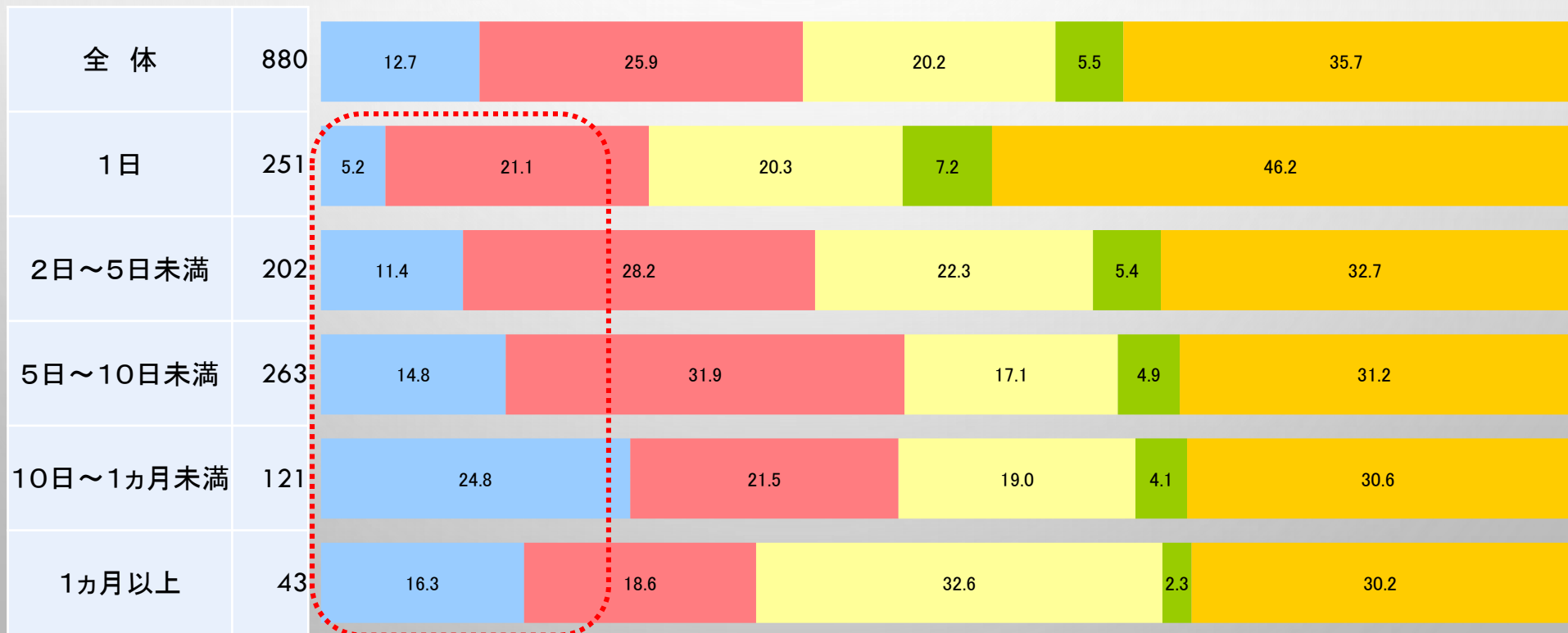
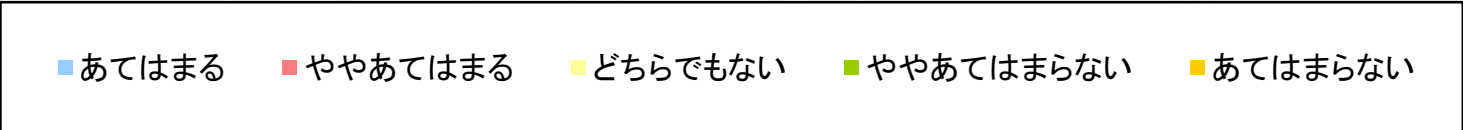
学修行動／履修科目の傾向変化

■ インターシップの期間が長くなるほど高い傾向にある。



学修行動／学修時間の増加

■ インターシップの期間が長くなるほど高い傾向にある。

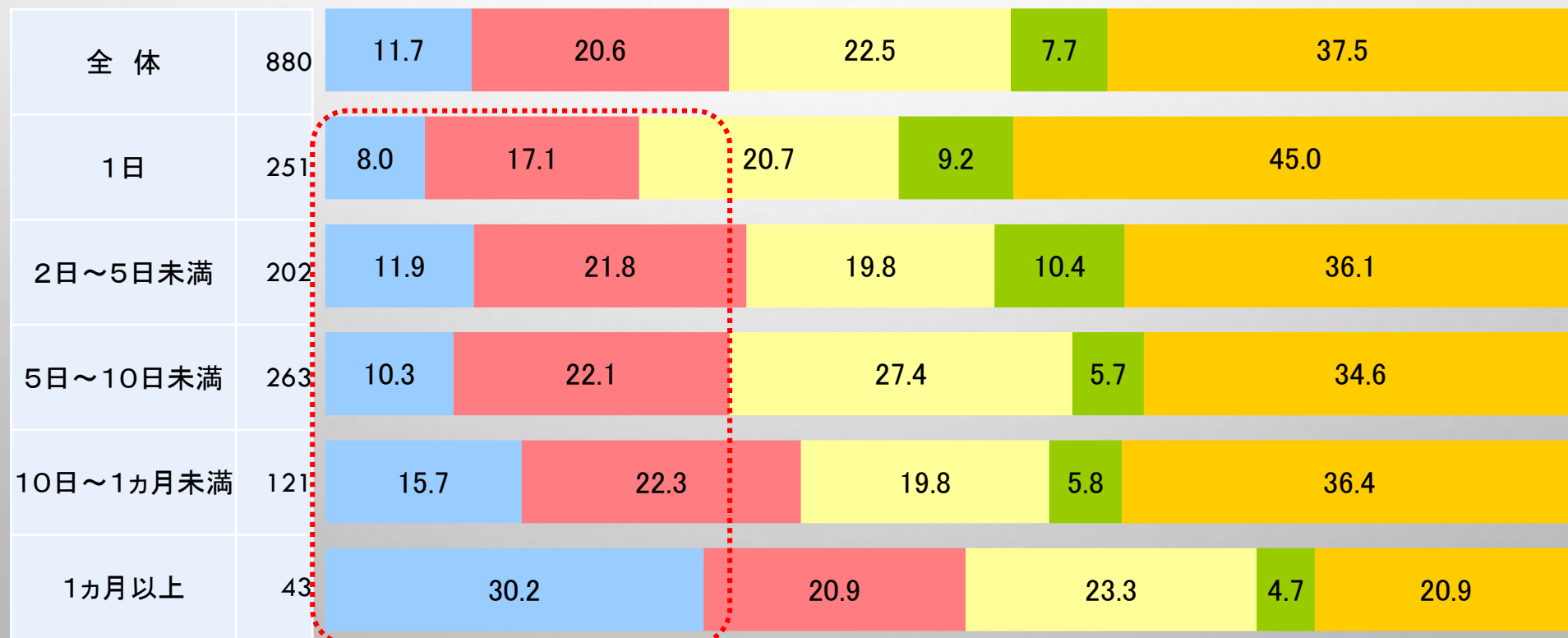


学修行動／学外での学修行動の増加

■ インターシップの期間が長くなるほど高い傾向にある。

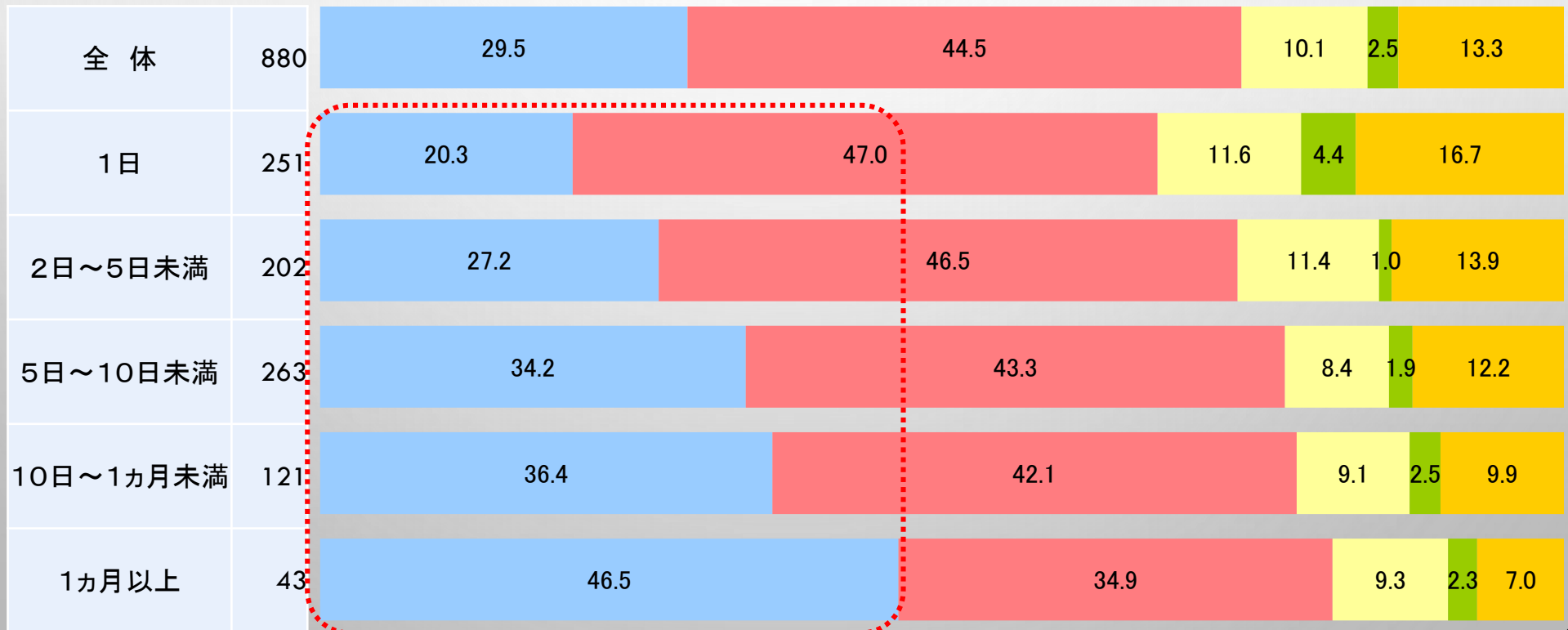
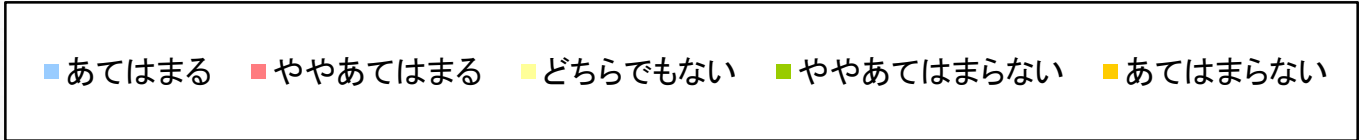


■ あてはまる ■ ややあてはまる ■ どちらでもない ■ ややあてはまらない ■ あてはまらない



学修行動／社会の仕組みへの関心の増加

■ インターンシップの期間が長くなるほど高い傾向にある。



学修行動／時事問題への関心の増加

■ インターンシップの期間が長くなるほど高い傾向にある。

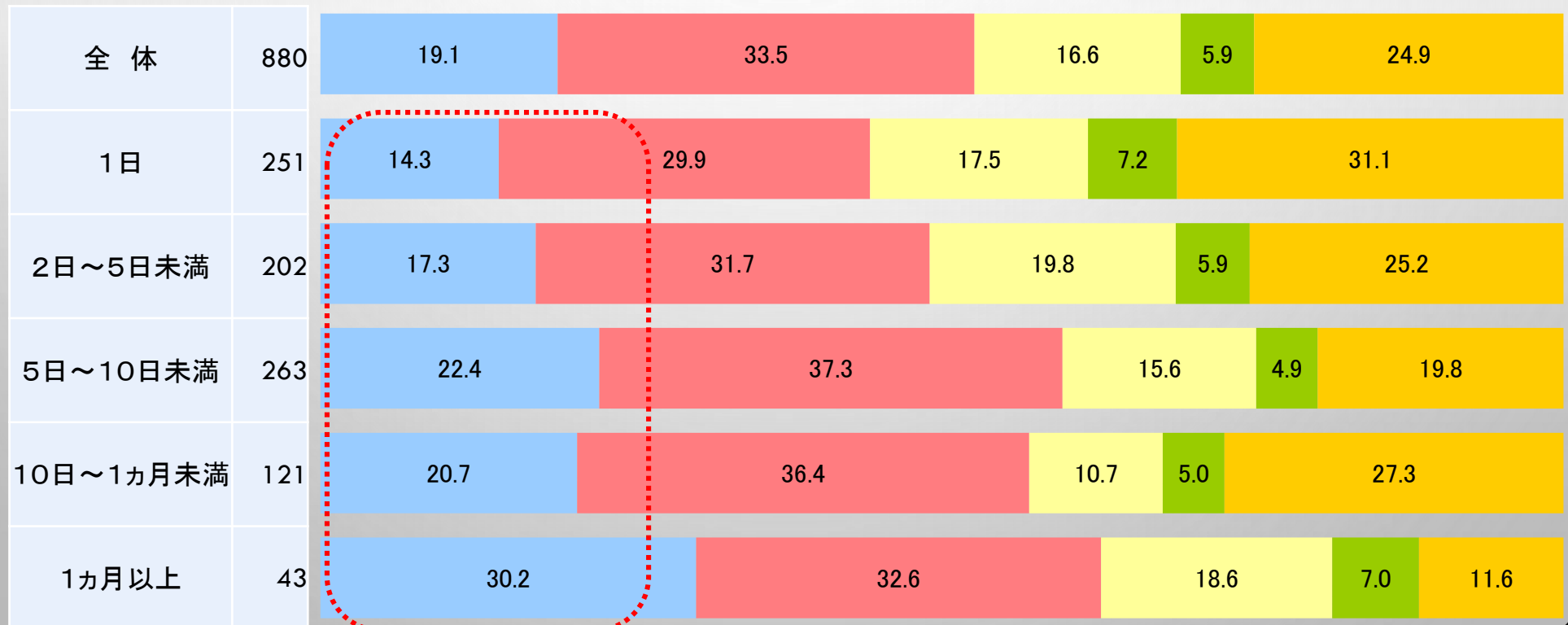
回答者属性の確認

インターンシップ経験

学習等への影響

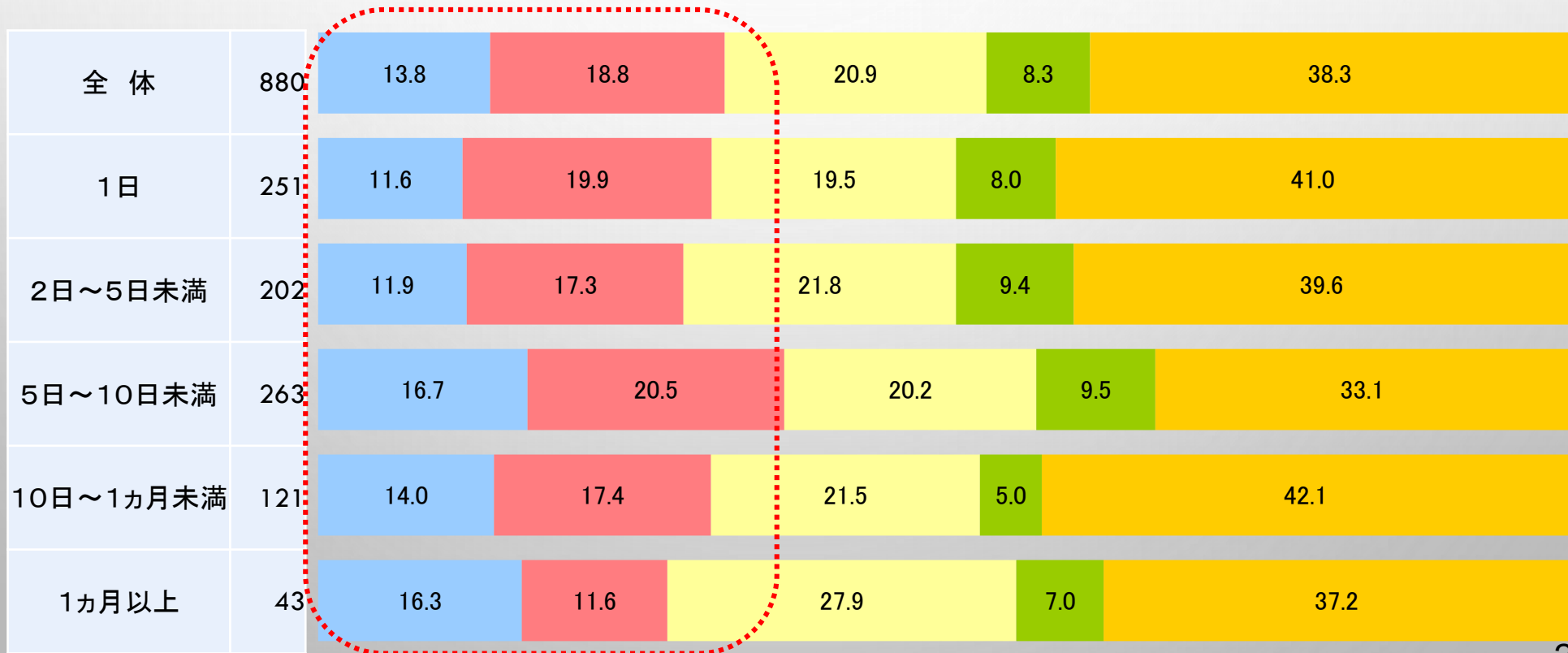
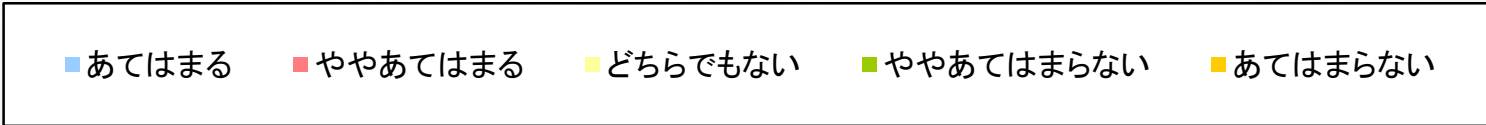
インターンシップの望ましい形態

■ あてはまる ■ ややあてはまる ■ どちらでもない ■ ややあてはまらない ■ あてはまらない



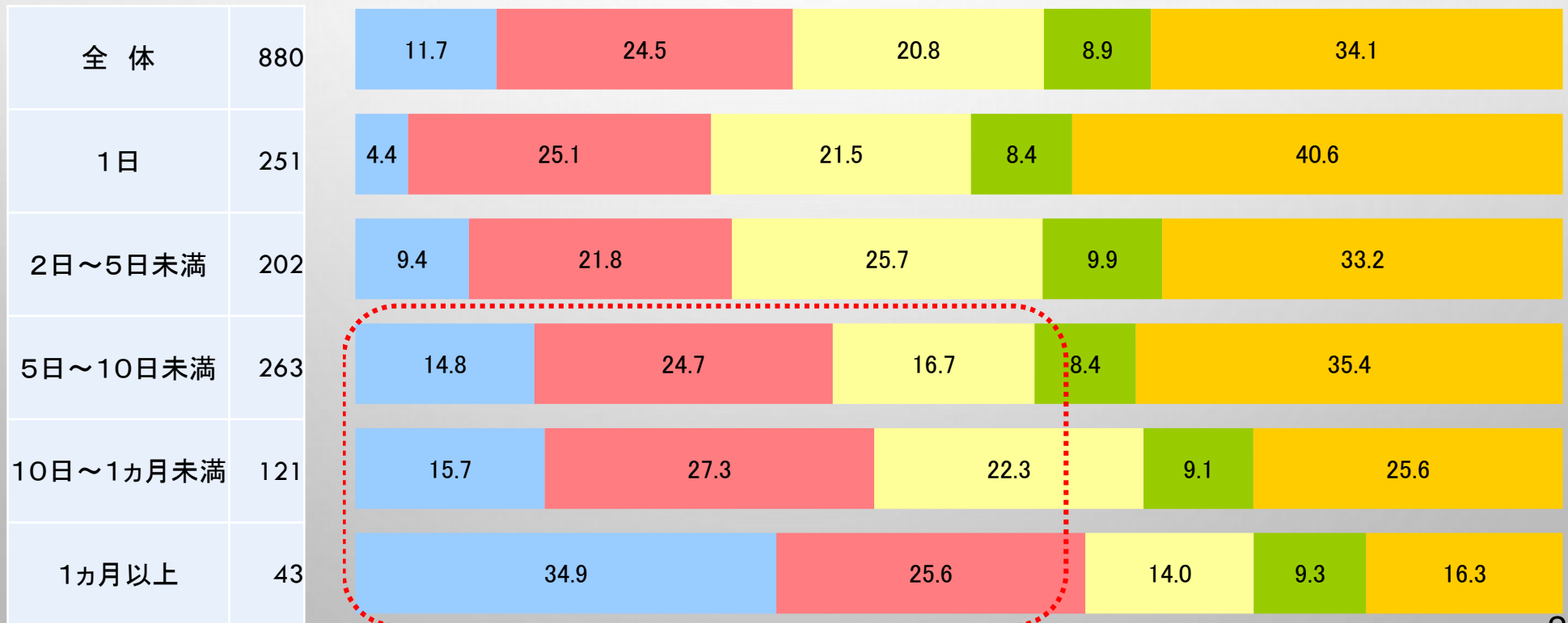
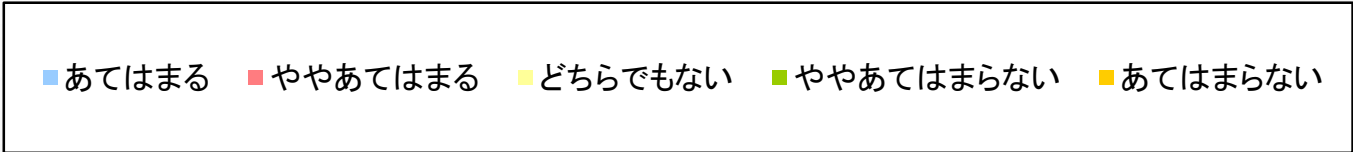
学修行動／資格試験取組の増加

■ インターシップの期間による影響は少ない。



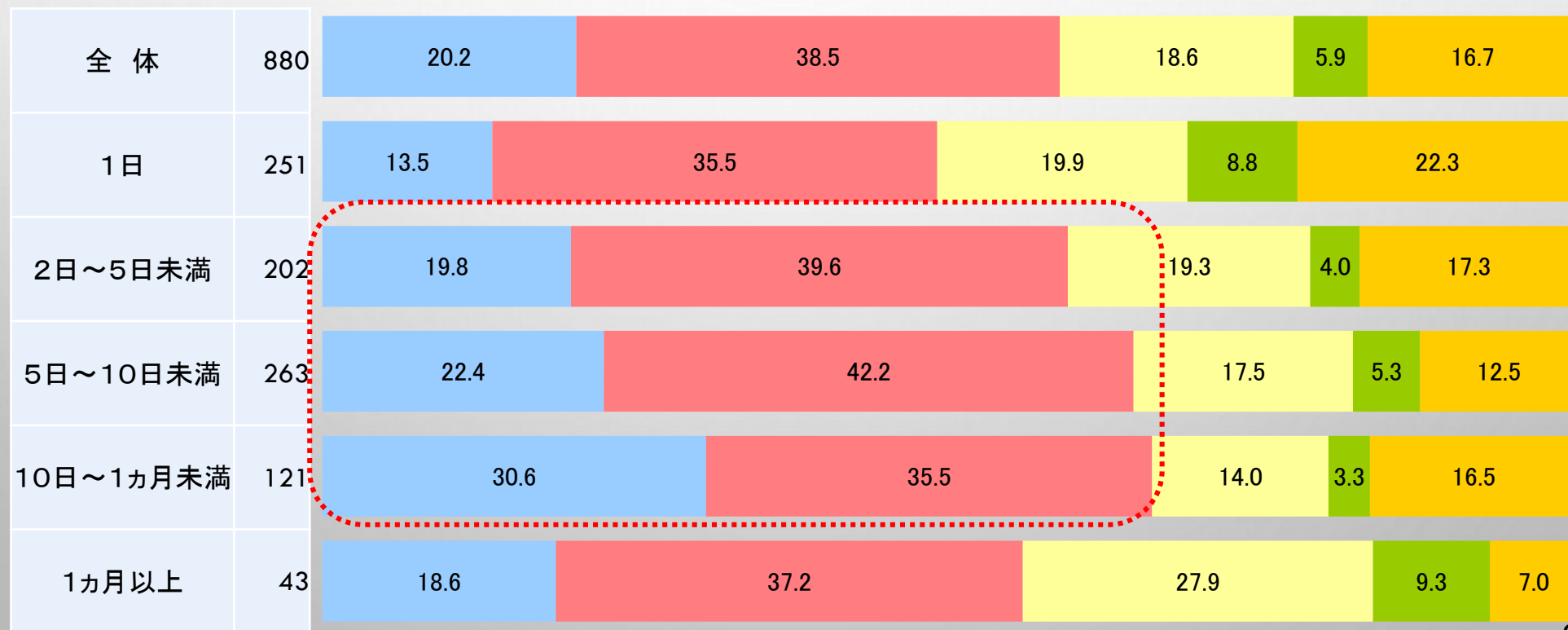
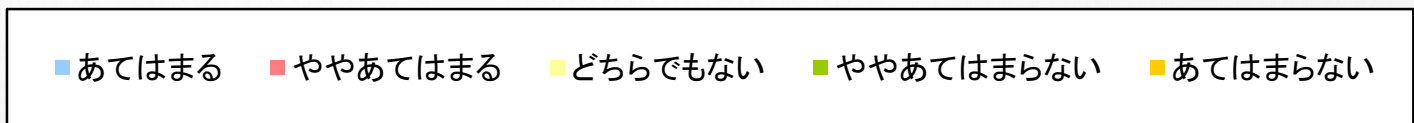
学修行動／社会人との交流の機会の増加

■ インターシップの期間が長くなるほど高い傾向にある。



学修行動／キャリアの明確化

■ 基本的には、インターンシップの期間が長くなるほど高い傾向にある。



学修行動／部活動等への参加時間の増加

■ インターンシップによる影響はほとんど見られない。

回答者属性の確認

インターンシップ経験

学習等への影響

インターンシップの望ましい形態

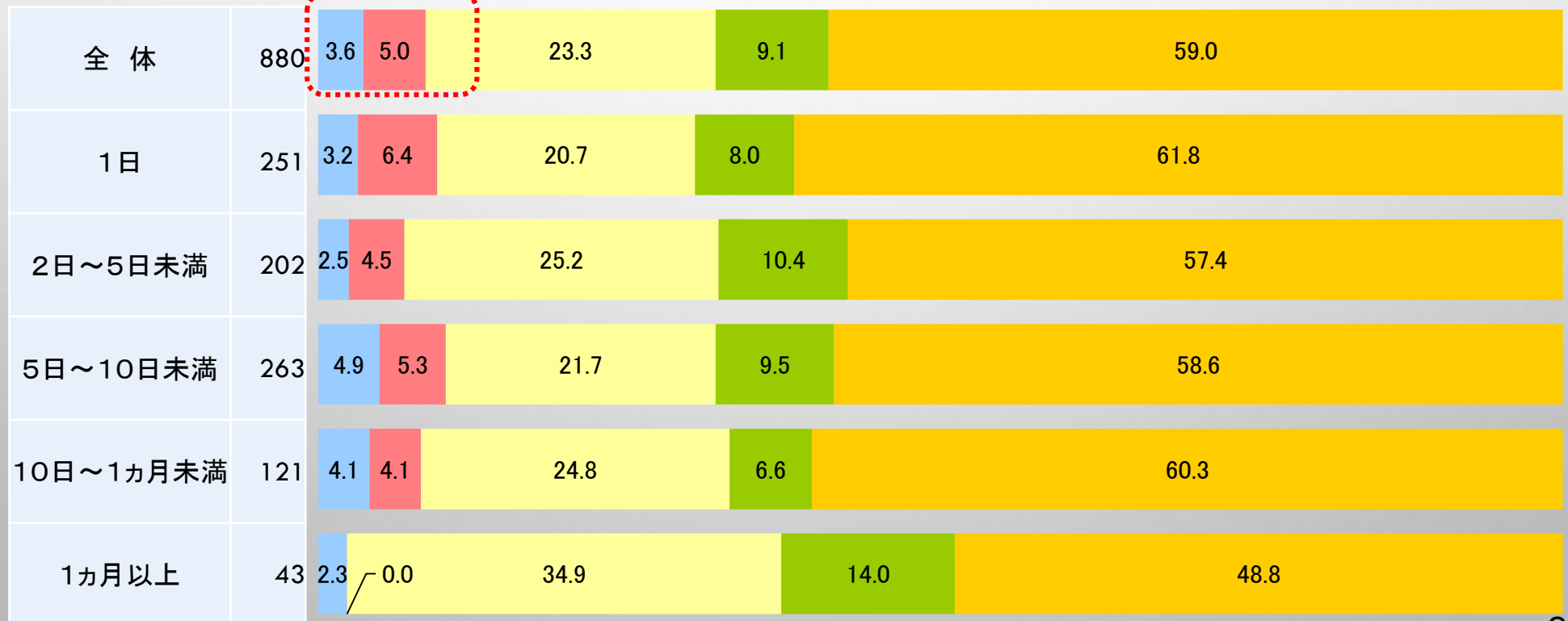
■ あてはまる

■ ややあてはまる

■ どちらでもない

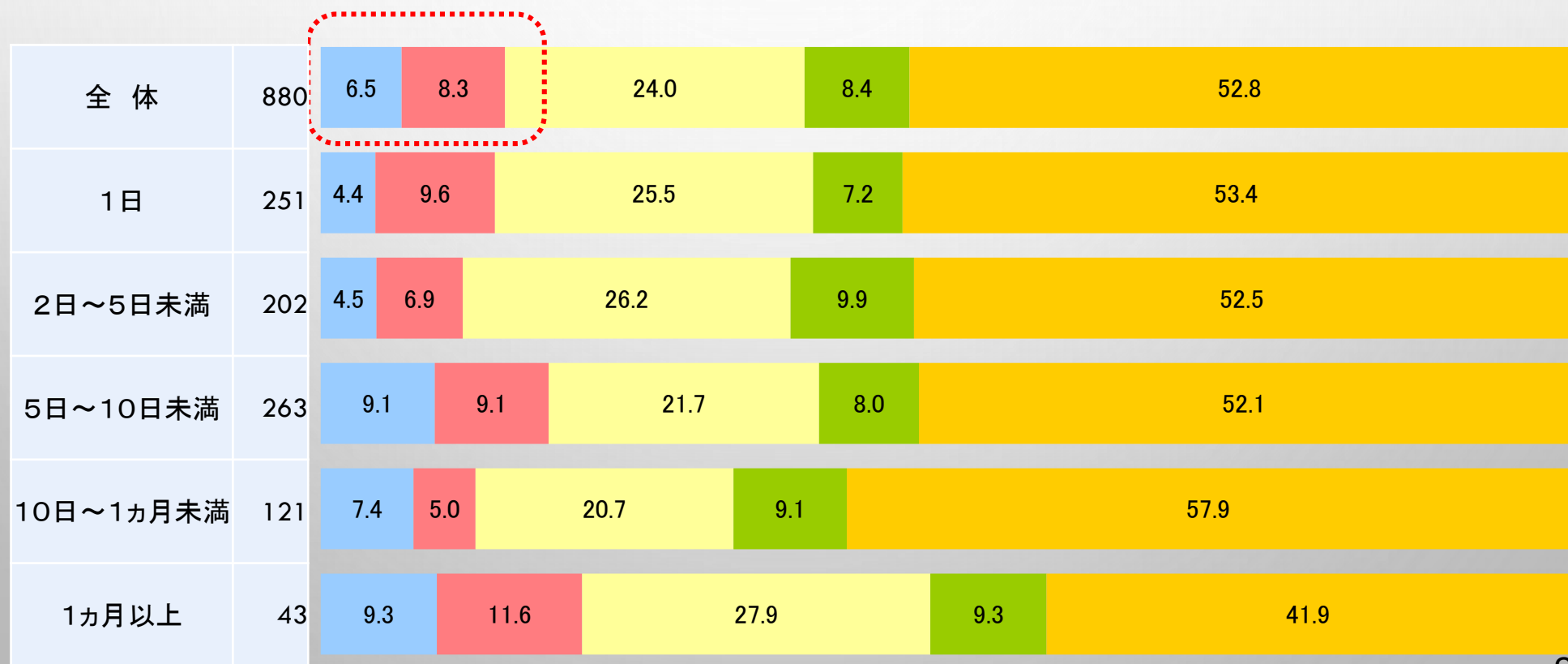
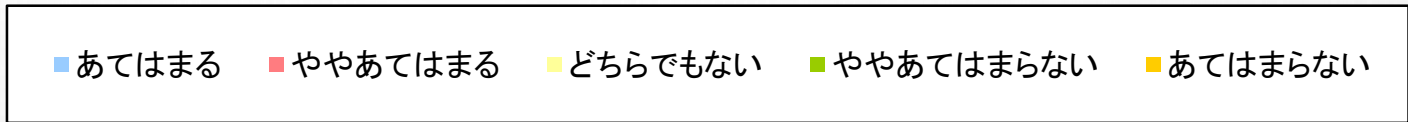
■ ややあてはまらない

■ あてはまらない



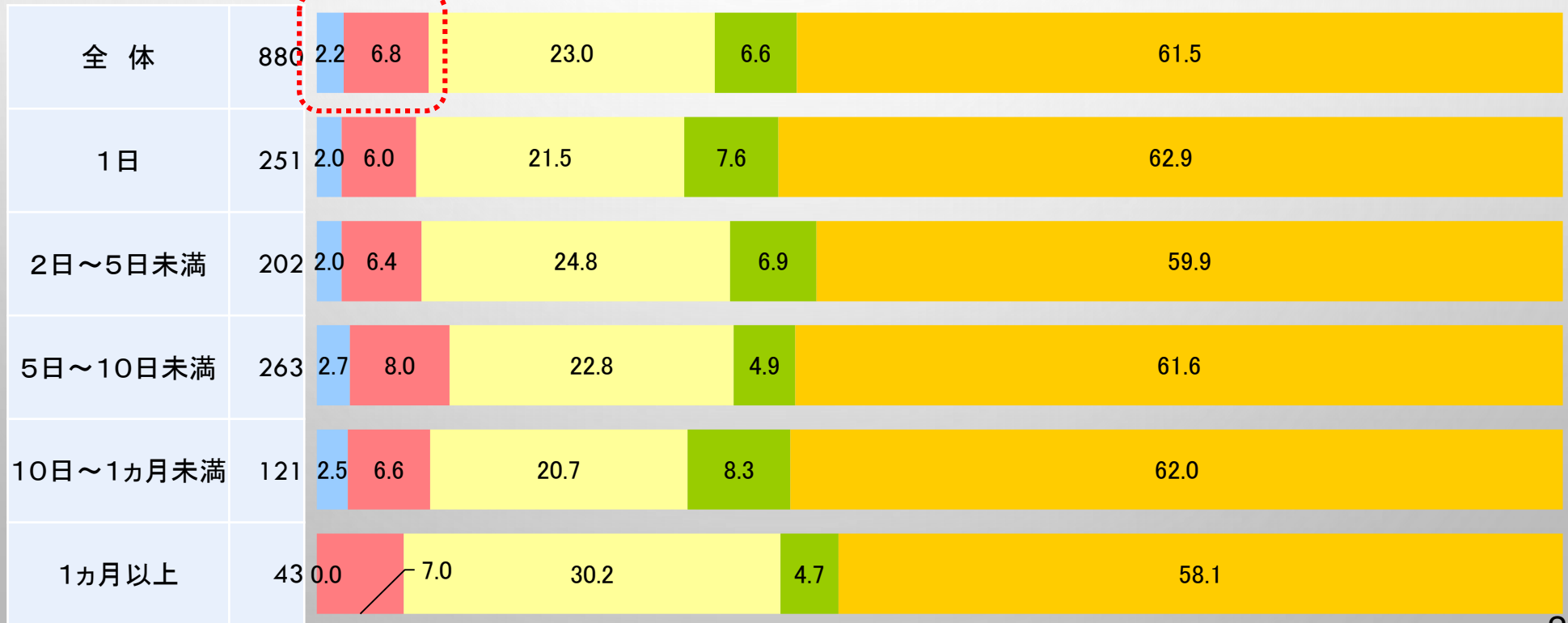
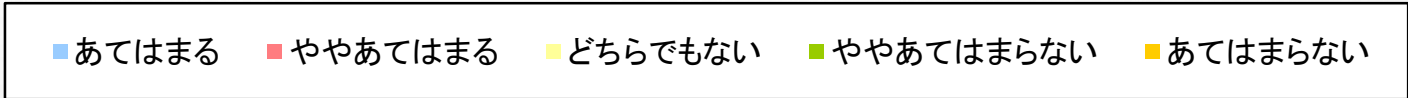
学修行動／アルバイトの参加時間の増加

■ インターンシップによる影響はほとんど見られない。



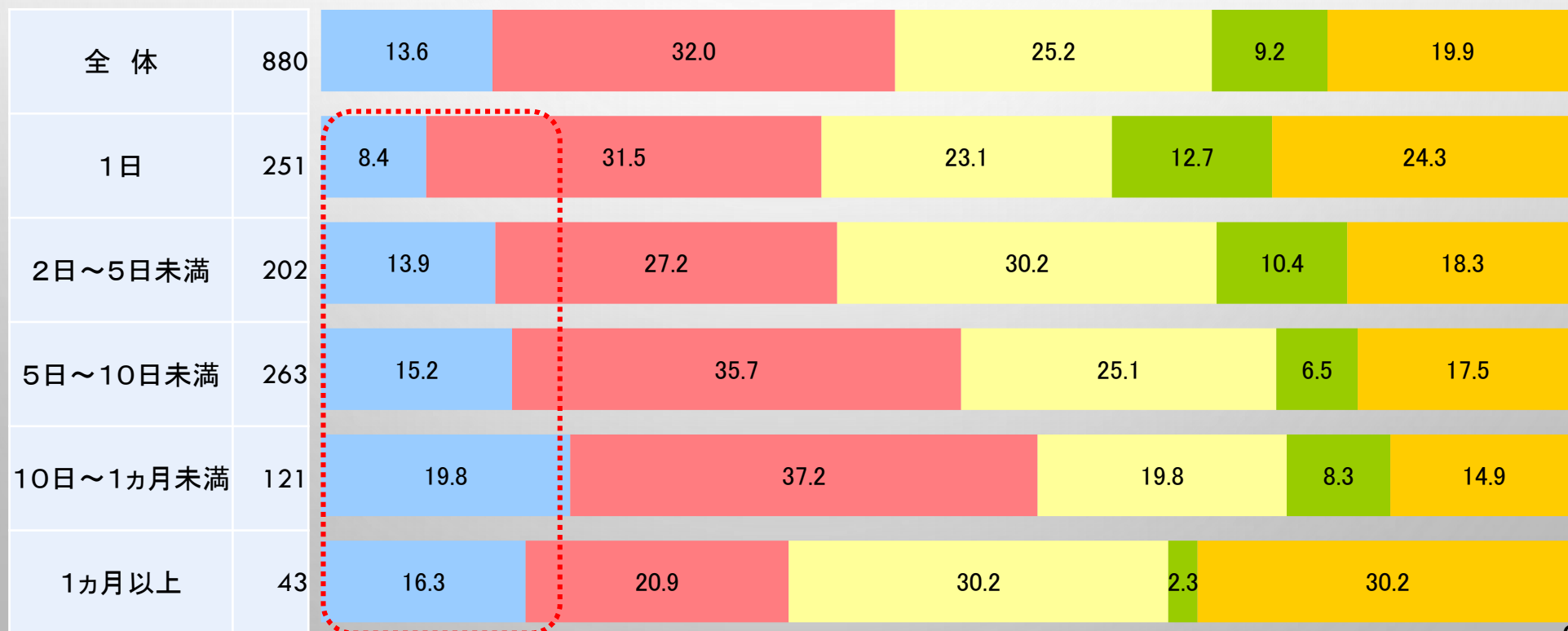
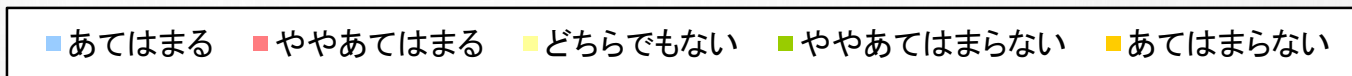
学修行動／ボランティアの参加時間の増加

■ インターンシップの期間による影響は少ない。



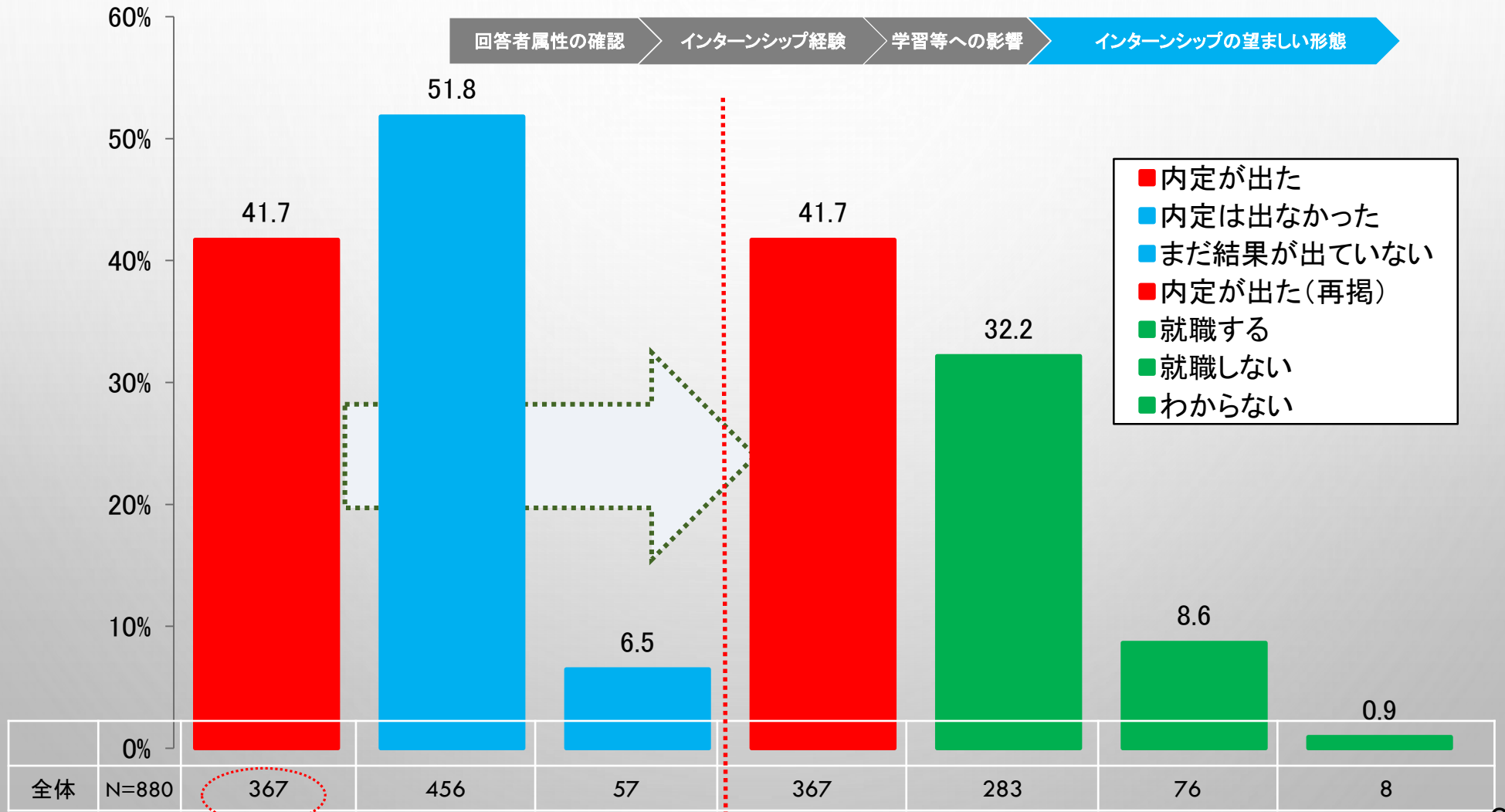
学修行動／就職活動のイメージ向上

■ インターシップの期間が長くなるほど高い傾向にある。



インターンシップ参加企業からの内定

- インターンシップ参加企業から内定をもらったケースは約42%。
- 上記のうち、当該企業へ就職するのは約77%。

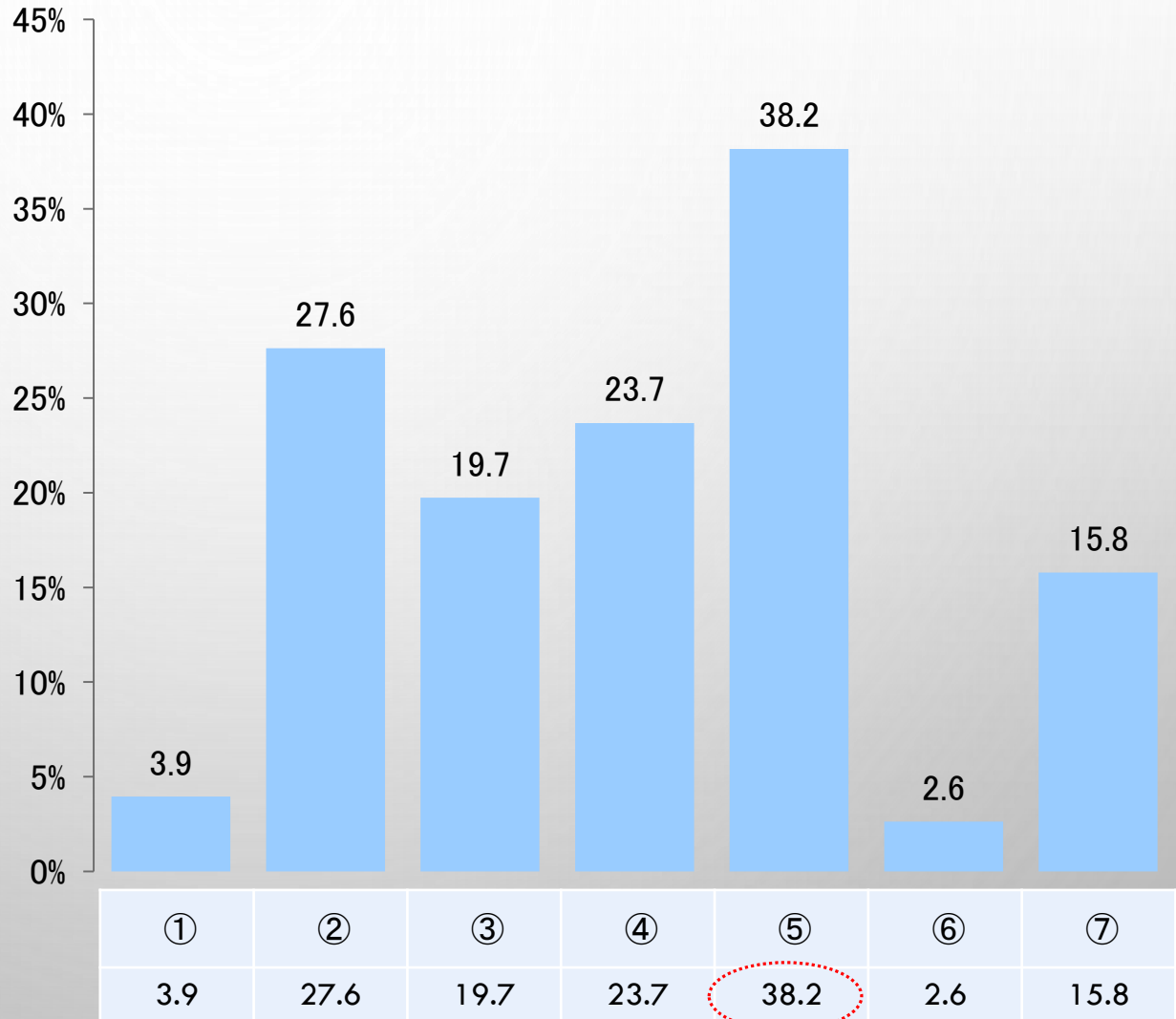


インターシップの参加企業を就職先としなかった理由

■ インターンシップによる影響は少なく、就職活動を通して他業種に関心が移ったことが要因であると考えられる。

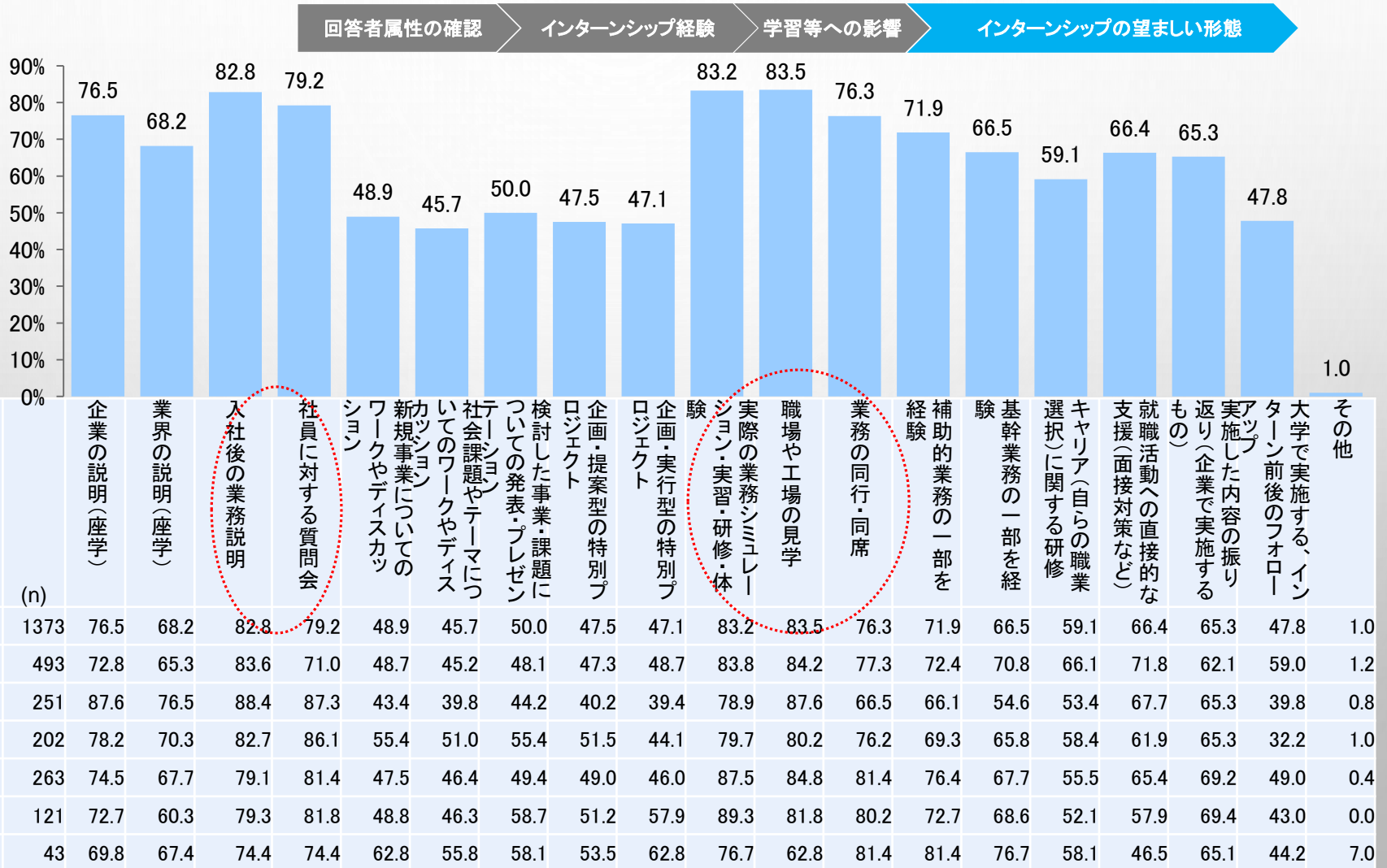


	(n)	① 業界・企業について詳しく把握できなかった	② 志望する業界・企業ではなかった	③ 会社の内容を把握し興味がなくなった	④ 事業の内容を把握し業界の関心が薄れた	⑤ 就職活動中に他業種に関心が移った	⑥ 希望した内定を得られなかった	⑦ その他
全体	76	3.9	27.6	19.7	23.7	38.2	2.6	15.8
1日	20	10.0	35.0	25.0	35.0	45.0	5.0	25.0
2日～5日未満	9	0.0	33.3	22.2	22.2	22.2	0.0	22.2
5日～10日未満	29	0.0	24.1	13.8	17.2	34.5	3.4	10.3
10日～1ヵ月未満	12	8.3	25.0	16.7	16.7	41.7	0.0	16.7
1ヵ月以上	6	0.0	16.7	33.3	33.3	50.0	0.0	0.0



インターンシップに求める内容

■ 具体的な業務に関わることのできる体験型のインターンシップを求める傾向にある。



インターンシップの望ましい期間

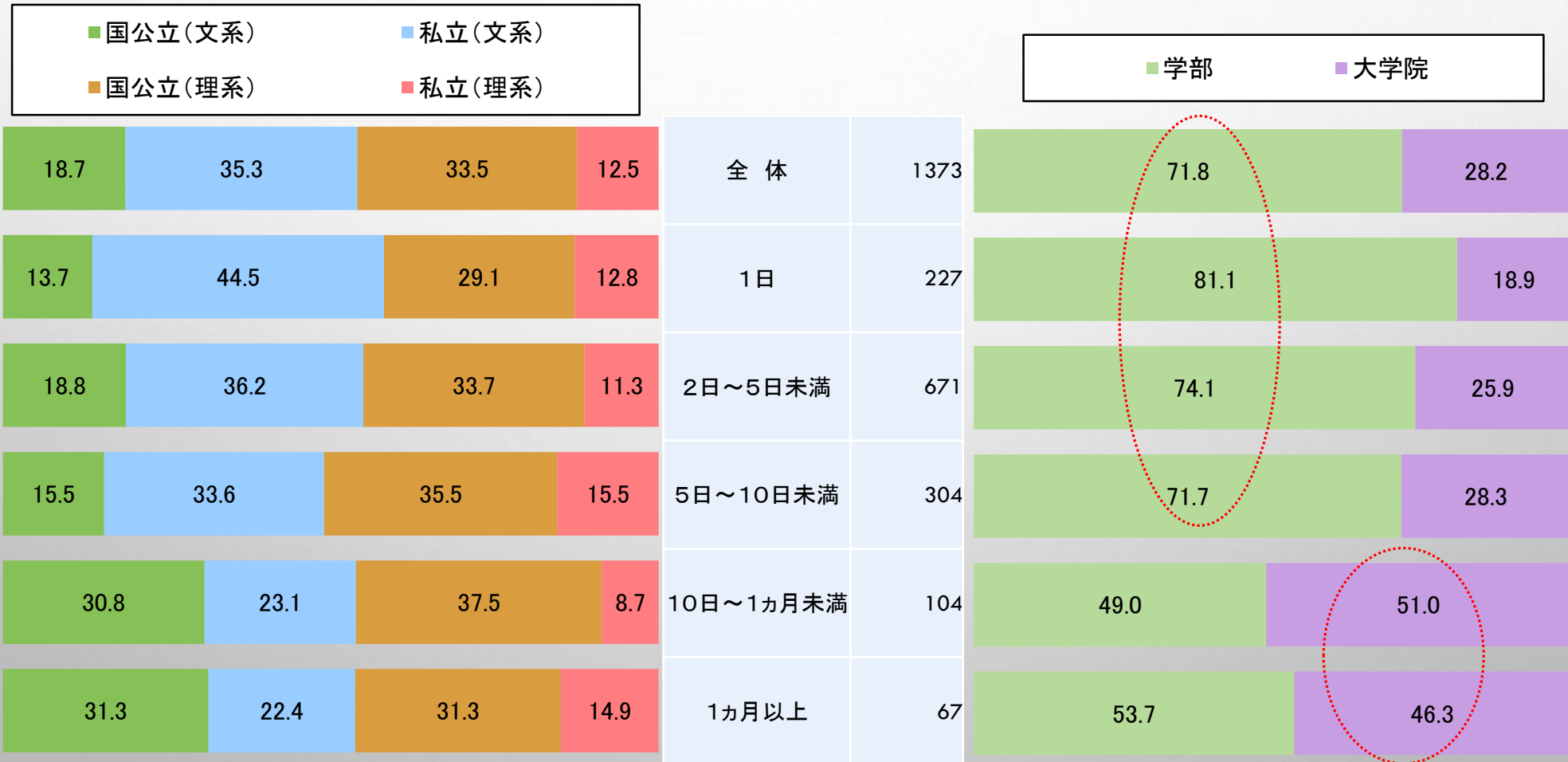
- 学部段階においては2日～5日の1週間程度のインターンシップを望む傾向にあり、大学院段階で10日以上以上のインターンシップを望む傾向にある。

回答者属性の確認

インターンシップ経験

学習等への影響

インターンシップの望ましい形態



1. 学生に対するアンケート調査結果

2. 大学に対するアンケート調査結果

3. まとめ

2. 大学に対するアンケート調査結果

趣旨

学生・企業の接続において長期インターンシップが与える効果の検証を得るため、文部科学省と（独）日本学生支援機構が協力して実施している「大学等のインターンシップ届出制度」に登録を行っている大学を対象に、以下の要領で調査を実施。

1. 主な調査事項

【基本項目】

- 大学の種別
- 設置学部等の分野系統
- 大学所在地
- 大学の規模（人数）

【インターンシップの運営等】

- 日数別インターンシップの参加割合
- 参加による学修行動の変化の把握（文系・理系）
- 教育課程に位置づけられた5日以上インターンシップの開催の有無
- 上記インターンシップ実施時の工夫
- 上記インターンシップ実施上の課題
- インターンシップ参加支援プログラムの有無
- 学生から寄せられる相談内容

【今後のインターンシップへの意見】

- 教育的効果の高いインターンシップの内容（文系・理系）
- 望ましいインターンシップの実施時期
- 望ましいインターンシップの期間
- インターンシップの今後の方向性
- 回答者のインターンシップに関する考え

2. 調査期間

令和2年2月3日（月）～2月29日（土）

3. 有効回答数

105大学

※調査に当たっては、大学全体を俯瞰して調査への回答を依頼。

調査項目の設計 (大学)

回答者属性の確認

1 学校種別

2 設置している
学部の分野系統

3 所在地 (選択制)

4 大学の規模

参加の状況・効果

5 期間別の参加者の割合

6 学修行動の変化

～5日未満のインターンシップ

5日～1か月未満のインターンシップ

1か月～のインターンシップ

6X 5日以上の
インターンシップの実施

7 5日以上のインターンシップで
工夫している点

8 左記のインターンシップの運
営上の課題

無: Q9へ

9 インターンシップ参加
支援のプログラム

10 学生からの相談内容

今後のインターンシップの運営

11 教育的効果の高いインターン
シップの内容

13 インターンシップの
望ましい参加期間

15 アンケート記入者

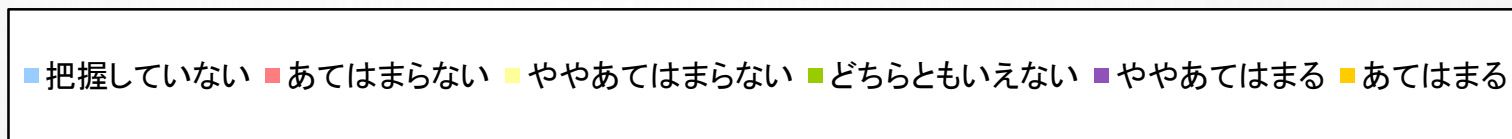
12 望ましいインターンシップ
の参加開始時期

14 今後重点を置く方向性

16 記入者の考え

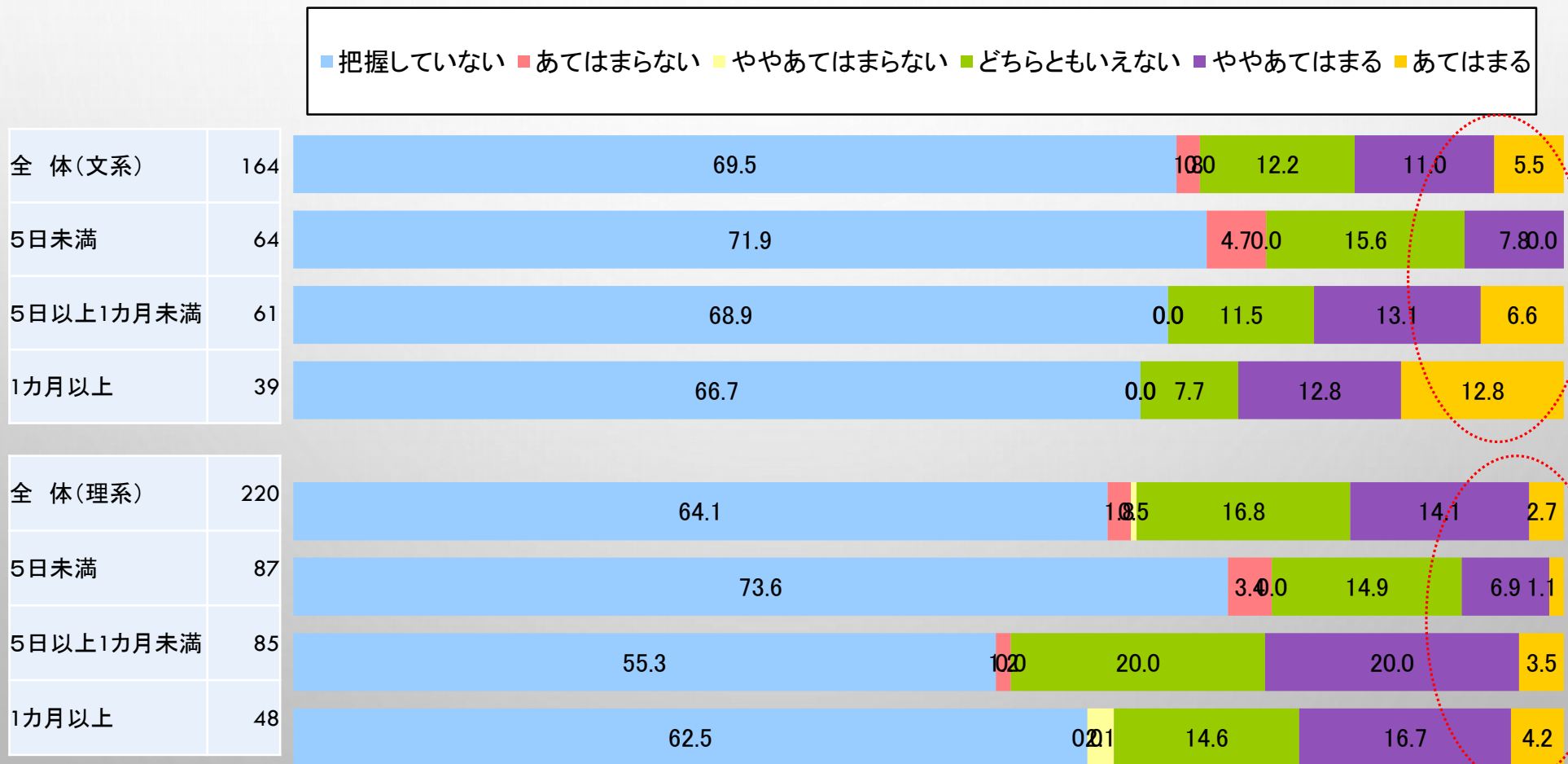
学修行動／出席日数の増加

- 文系・理系双方とも、日数が長くなるほど出席への影響は見られたが、特に理系の方が顕著であった。



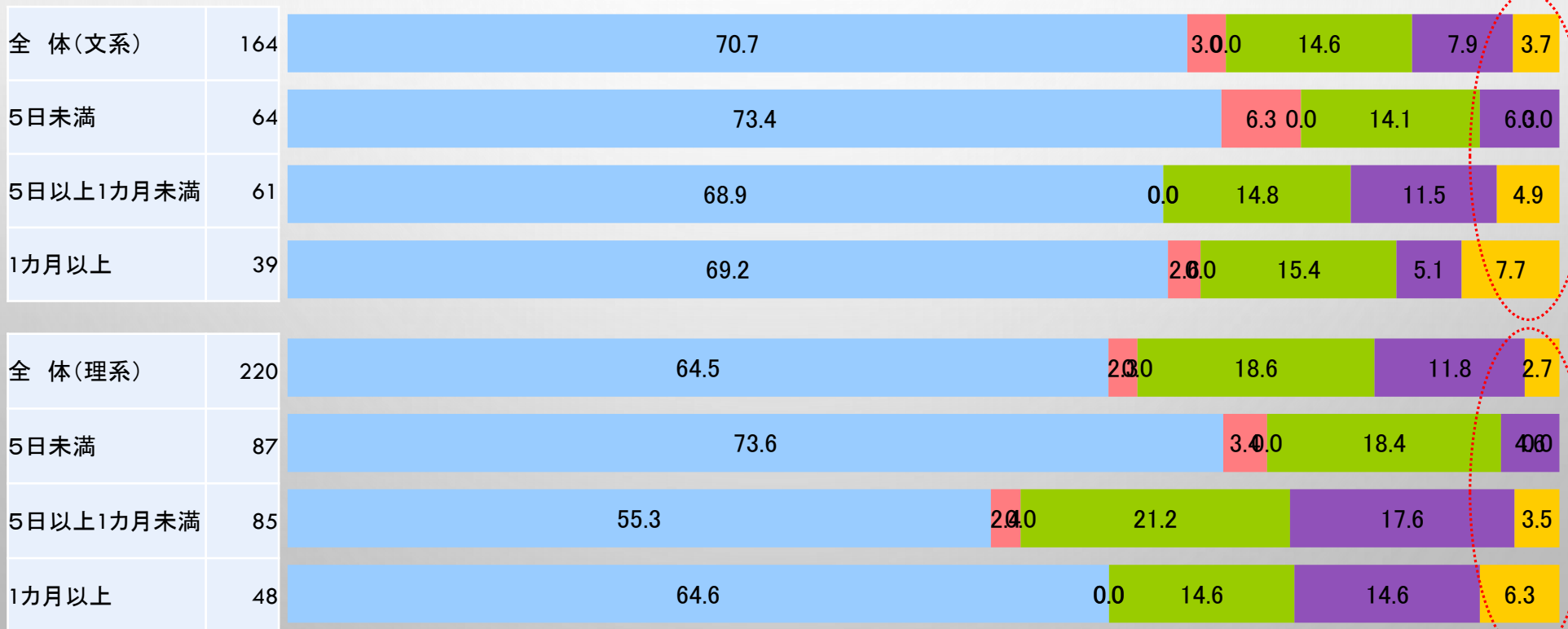
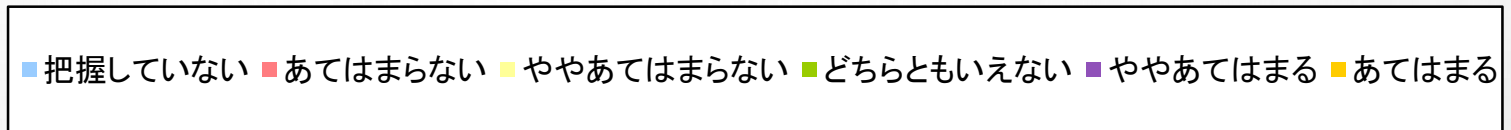
学修行動／興味関心のある内容に対する学習時間が増えた

- 文系・理系双方とも、日数が長くなるほど興味関心のある内容に対する学習時間が増えているが、特に文系の方が顕著であった。



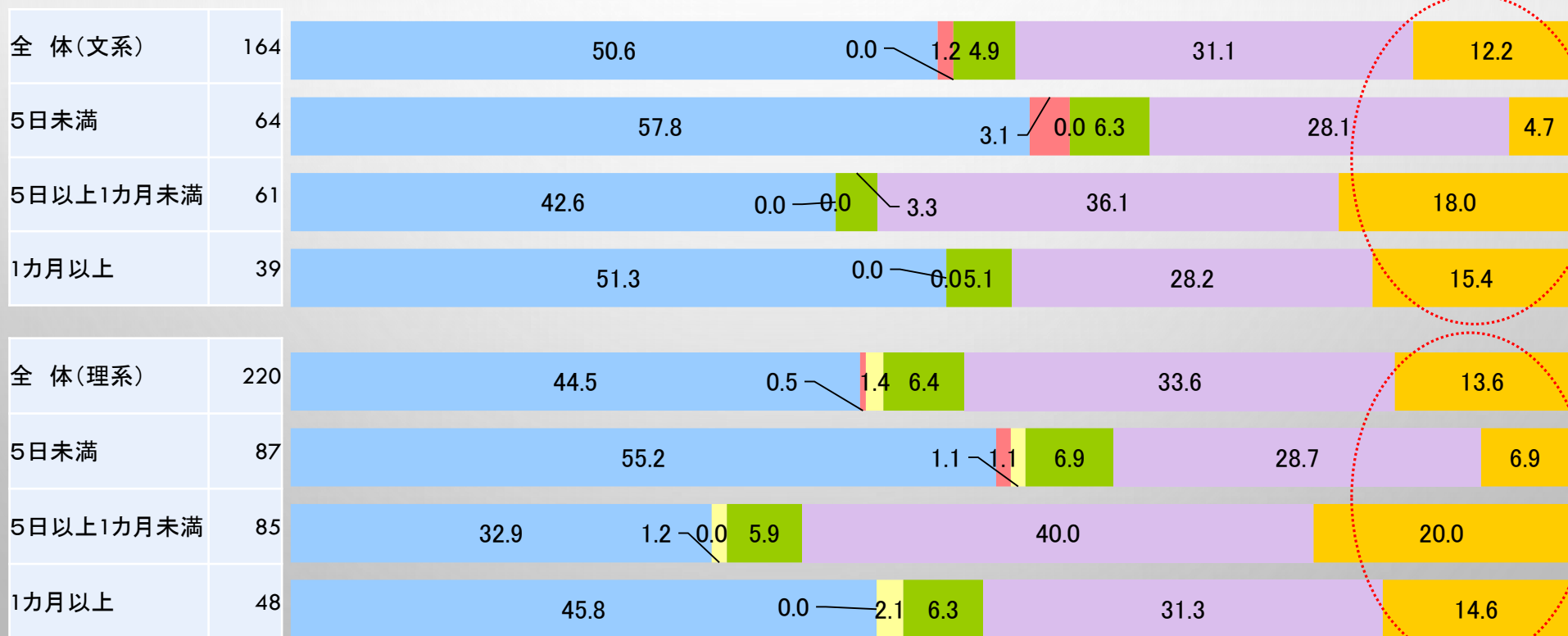
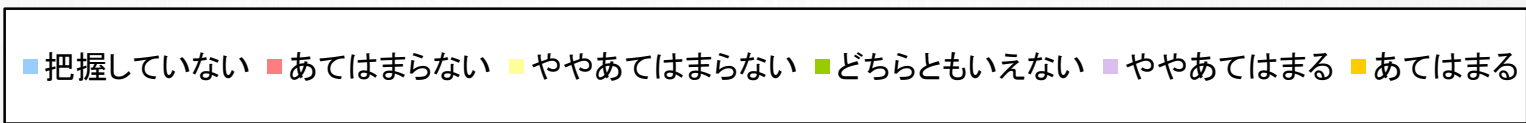
学修行動／大学外での学修行動が増えた

- 文系・理系双方とも、大学外での学修行動が増えたが、特に理系の方が顕著であった。



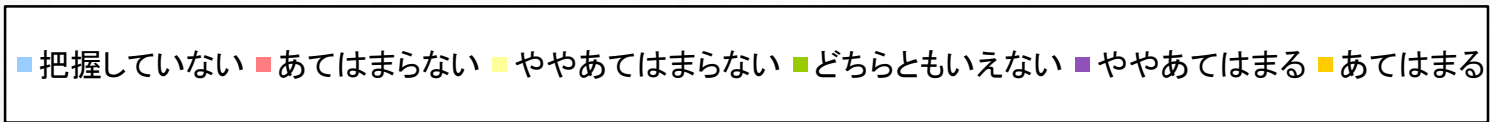
学修行動／企業をはじめとした社会の仕組みへの関心が高まった

- 文系・理系双方とも、日数が長くなるほど社会の仕組みへの関心が高まっていた。



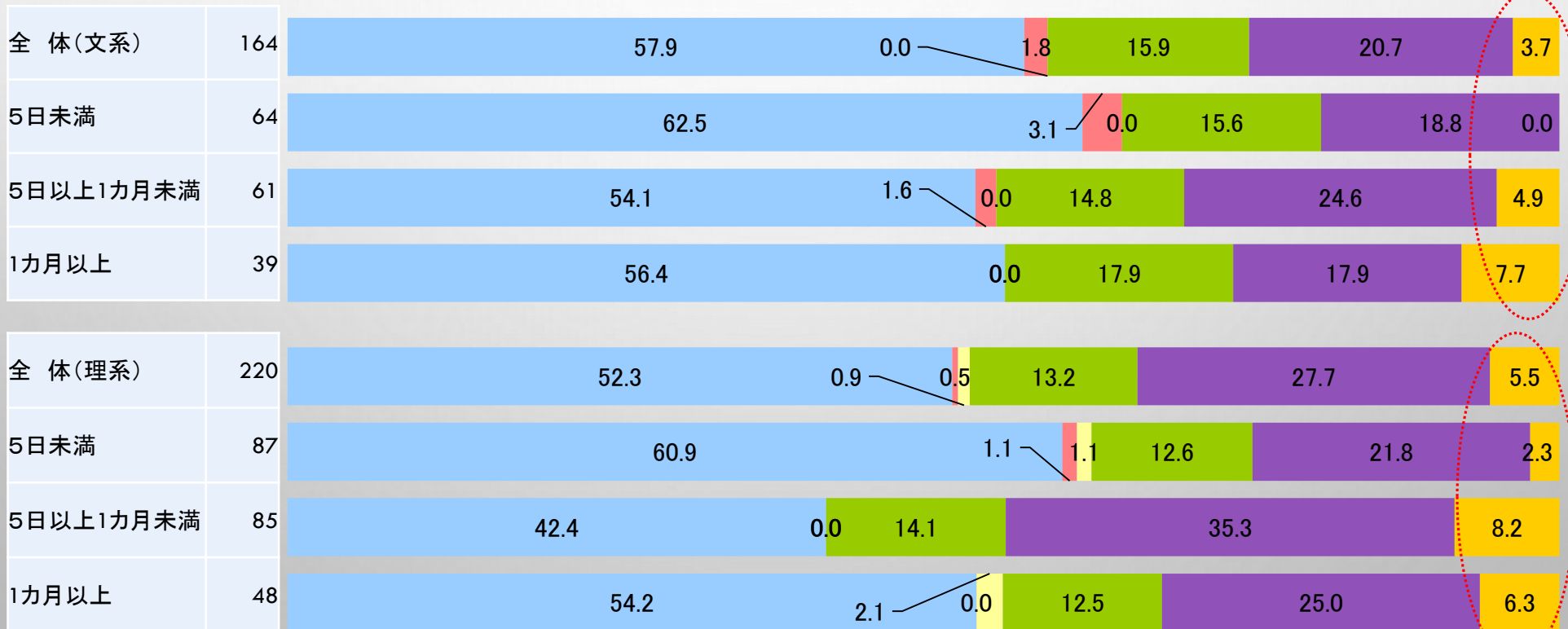
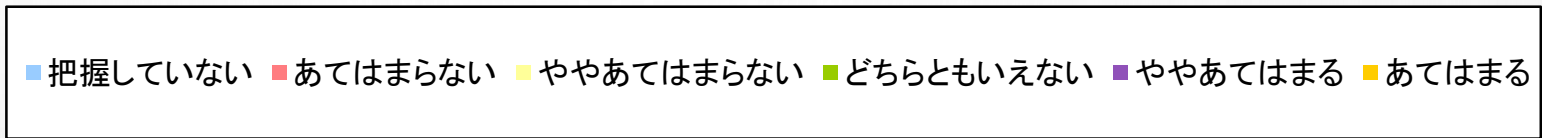
学修行動／時事問題などに関する情報を見る時間の増加

- 文系・理系双方とも、日数が長くなるほど時事問題などに関する情報を見る時間が増加したように見られたが、特に理系の方が顕著であった。



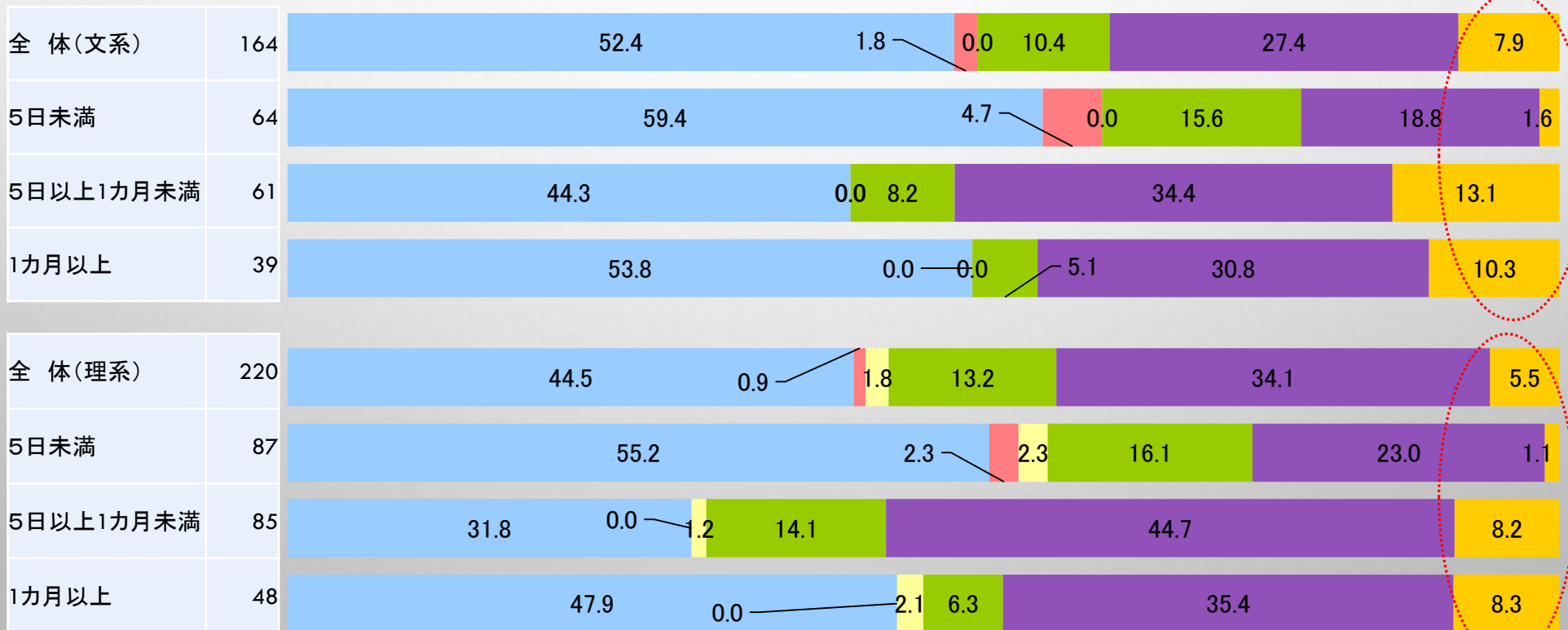
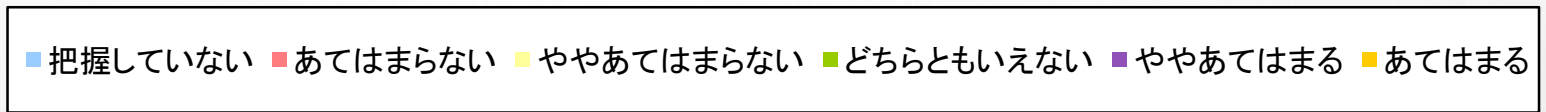
学修行動／社会人などとの交流機会の増加

- 文系・理系双方とも、日数が長くなるほど社会人との交流機会の増加への影響は見られたが、特に理系の方が顕著であった。



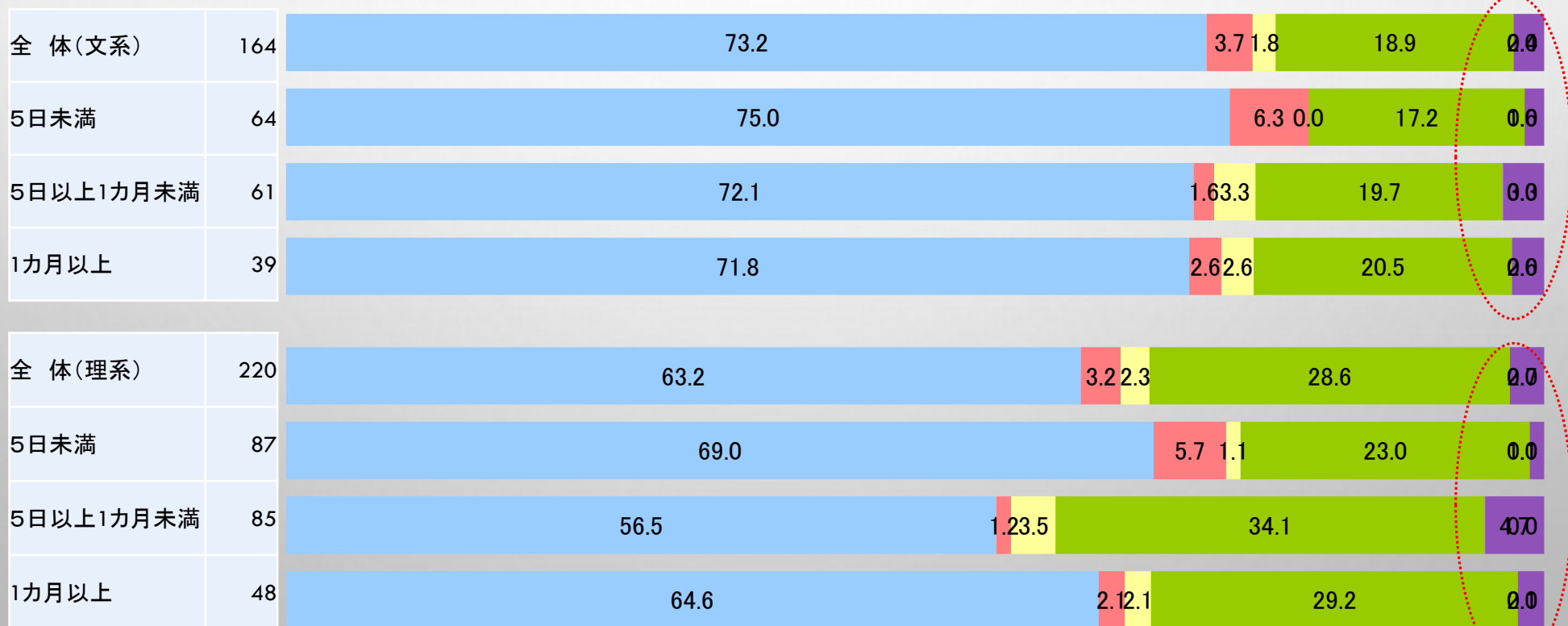
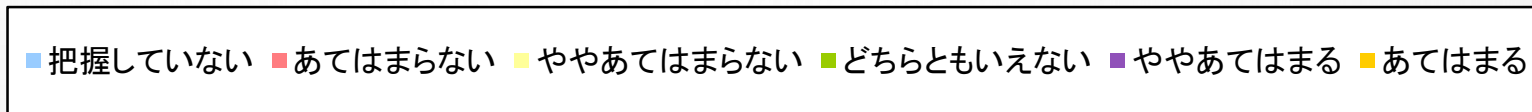
学修行動／自らのキャリア観が明確になった

- 文系・理系双方とも、日数が長くなるほど自らのキャリア感が明確になったとの意見は見られたが、特に理系の方が顕著であった。



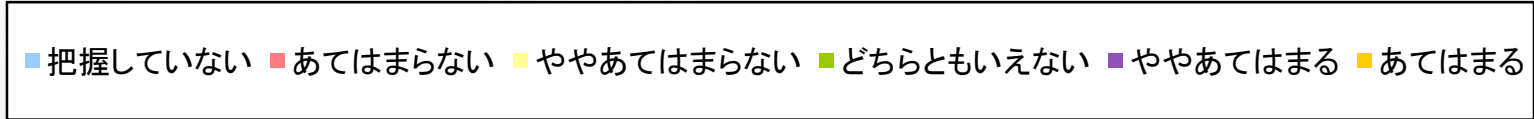
学修行動／クラブ活動もしくはサークル活動への参加時間が増えた

- 文系・理系双方とも、クラブ活動等への参加時間の増加への影響については、特に有意な差は見られなかった。



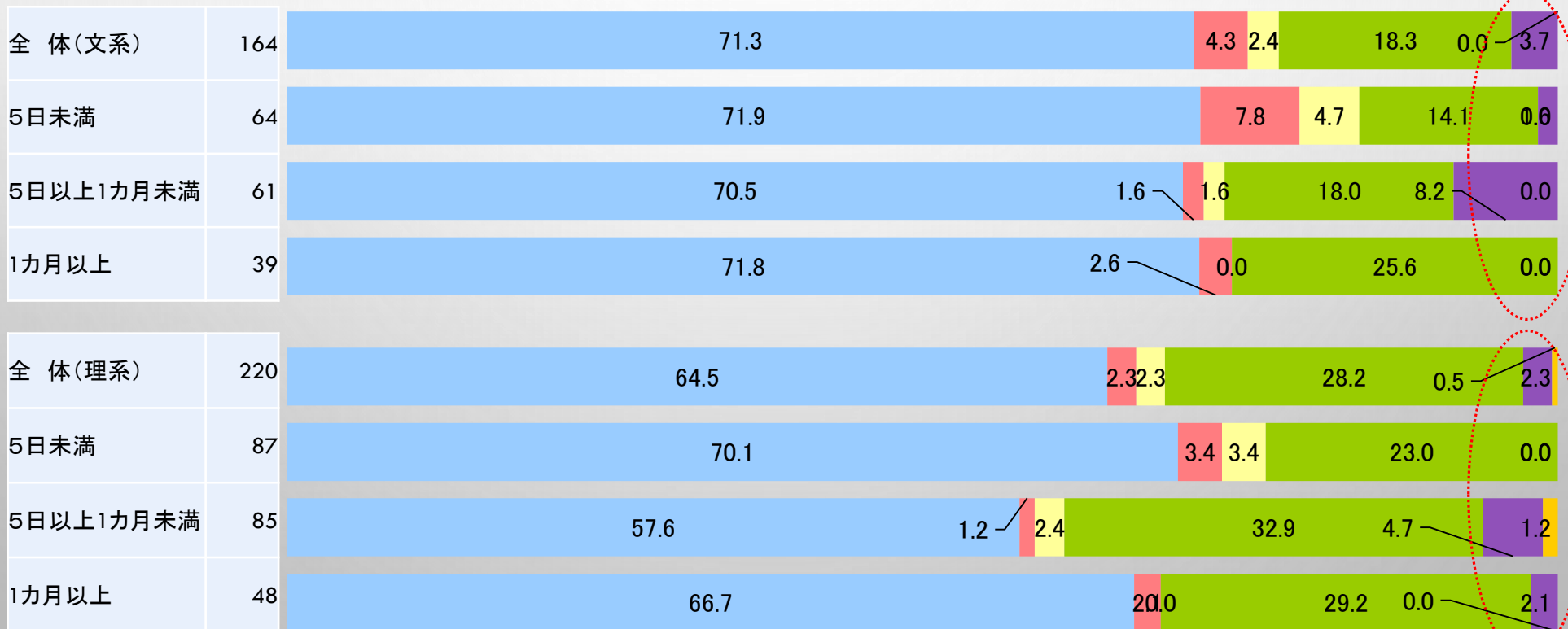
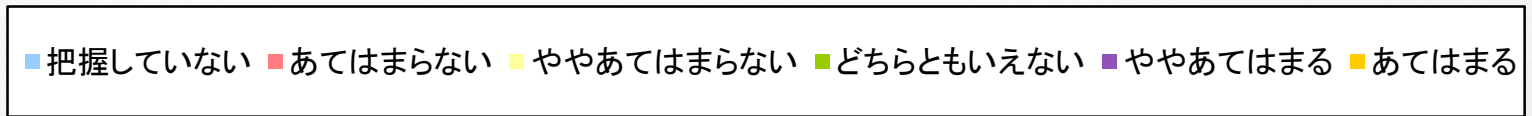
学修行動／アルバイトへの参加時間が増えた

- 文系・理系双方とも、アルバイトへの参加時間の増加への影響については、特に有意な差は見られなかった。



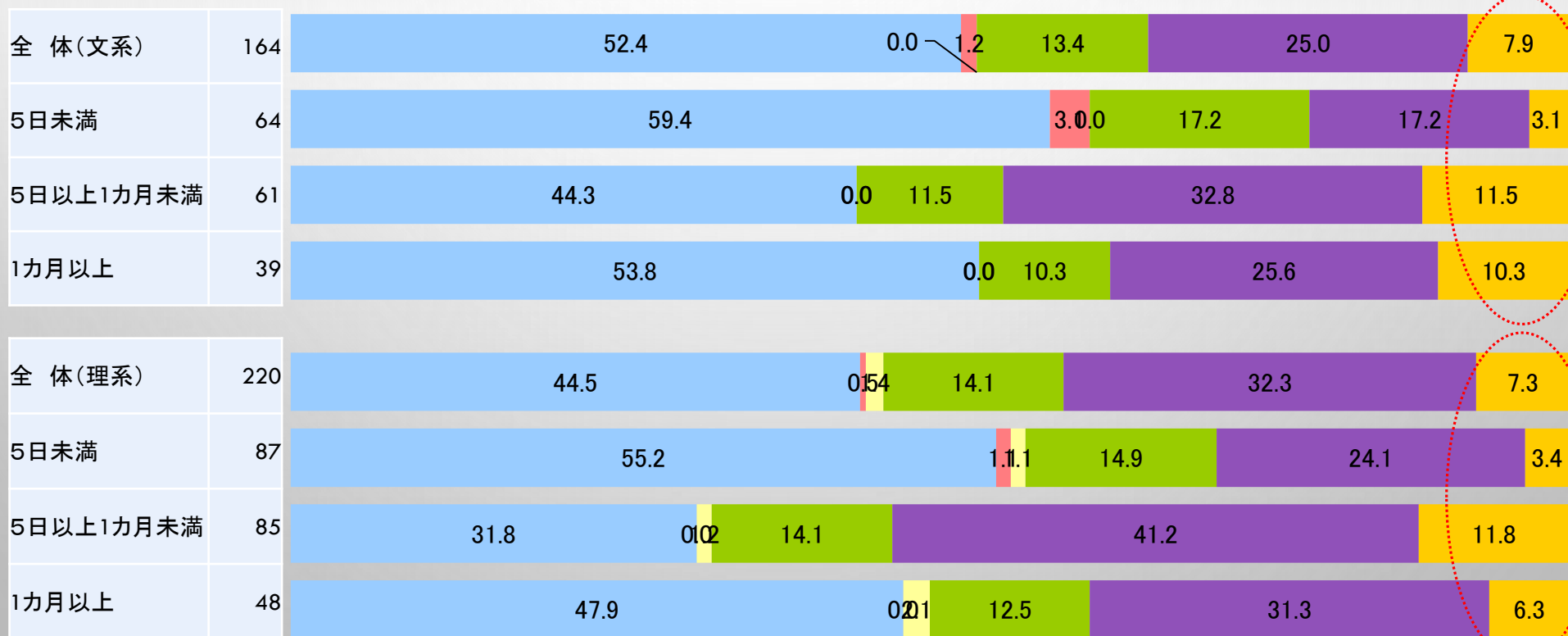
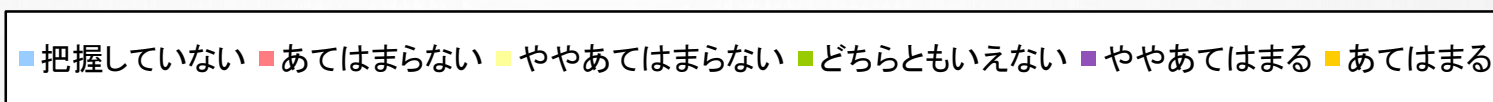
学修行動／ボランティアへの参加時間が増えた

- 文系・理系双方とも、日数が長くなるほどボランティアへの参加時間の増加に若干の影響は見られた。



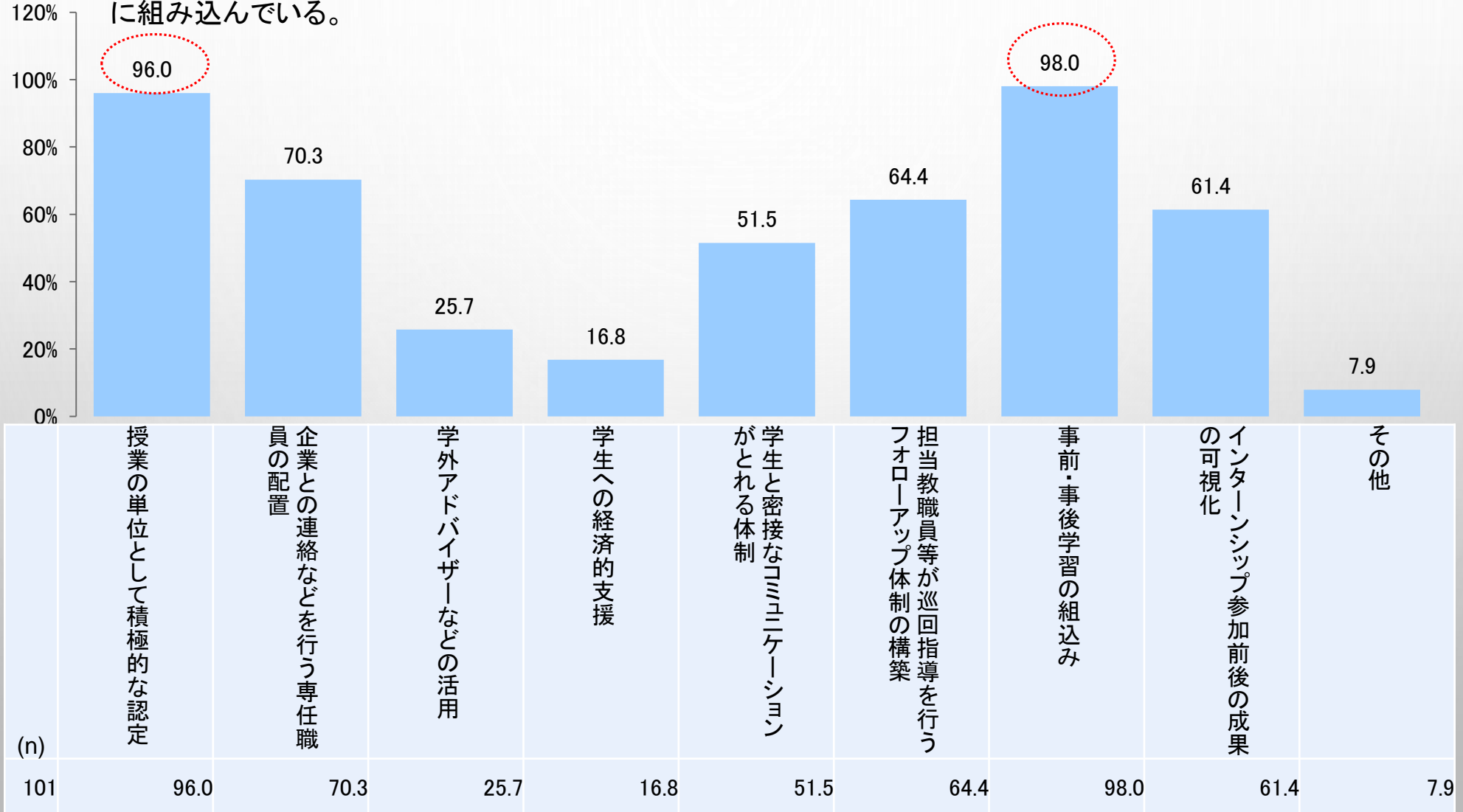
学修行動／就職活動に対してポジティブなイメージを持った

- 文系・理系双方とも、日数が長くなるほど就職活動に対するイメージがポジティブになる傾向が見られたが、特に理系の方が顕著であった。



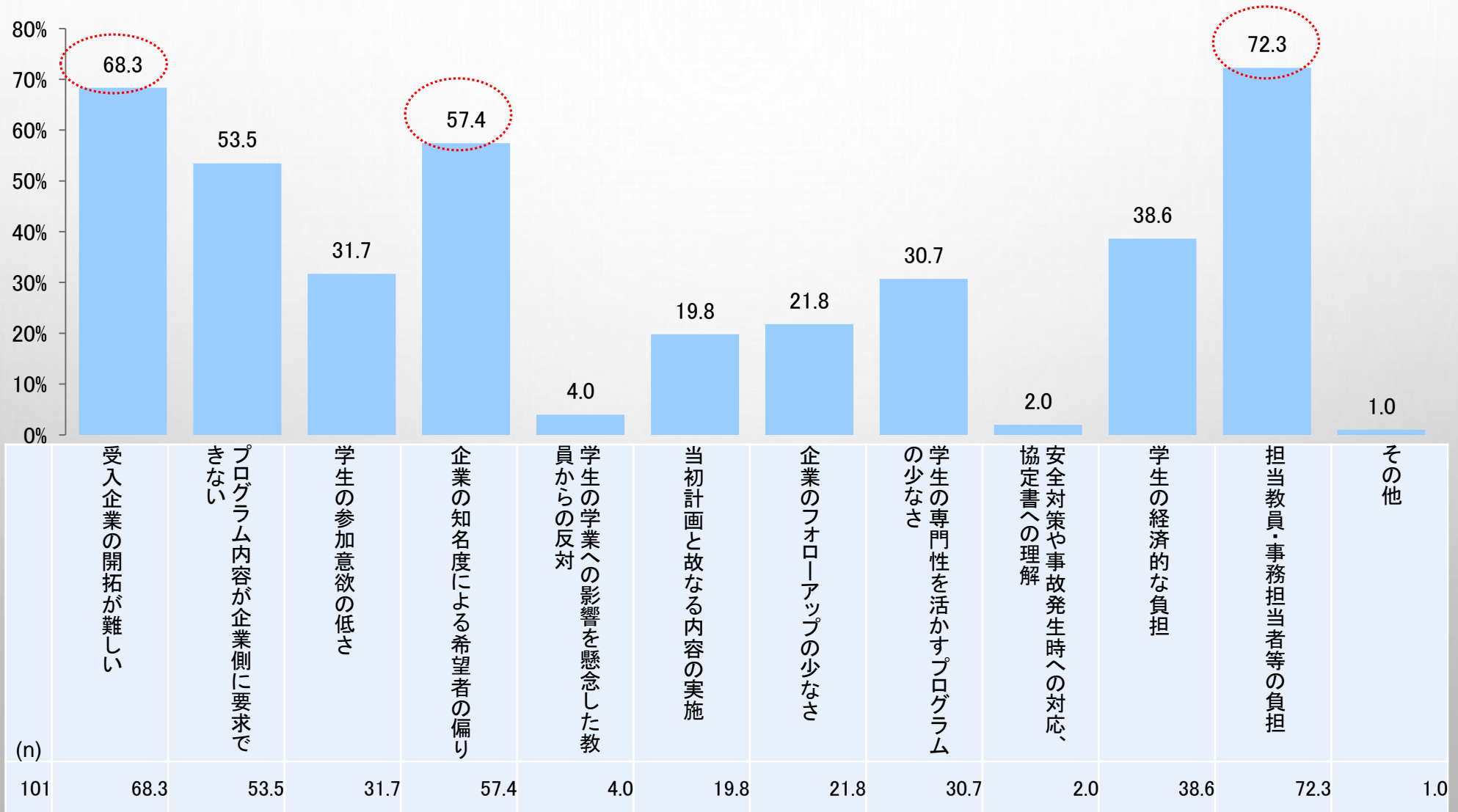
教育課程に位置づけられた5日以上のインターンシップにおいて 特に工夫している点

- 大学では5日以上のインターンシップを積極的に単位として認定する傾向にあり、事前・事後学習を積極的に組み込んでいる。



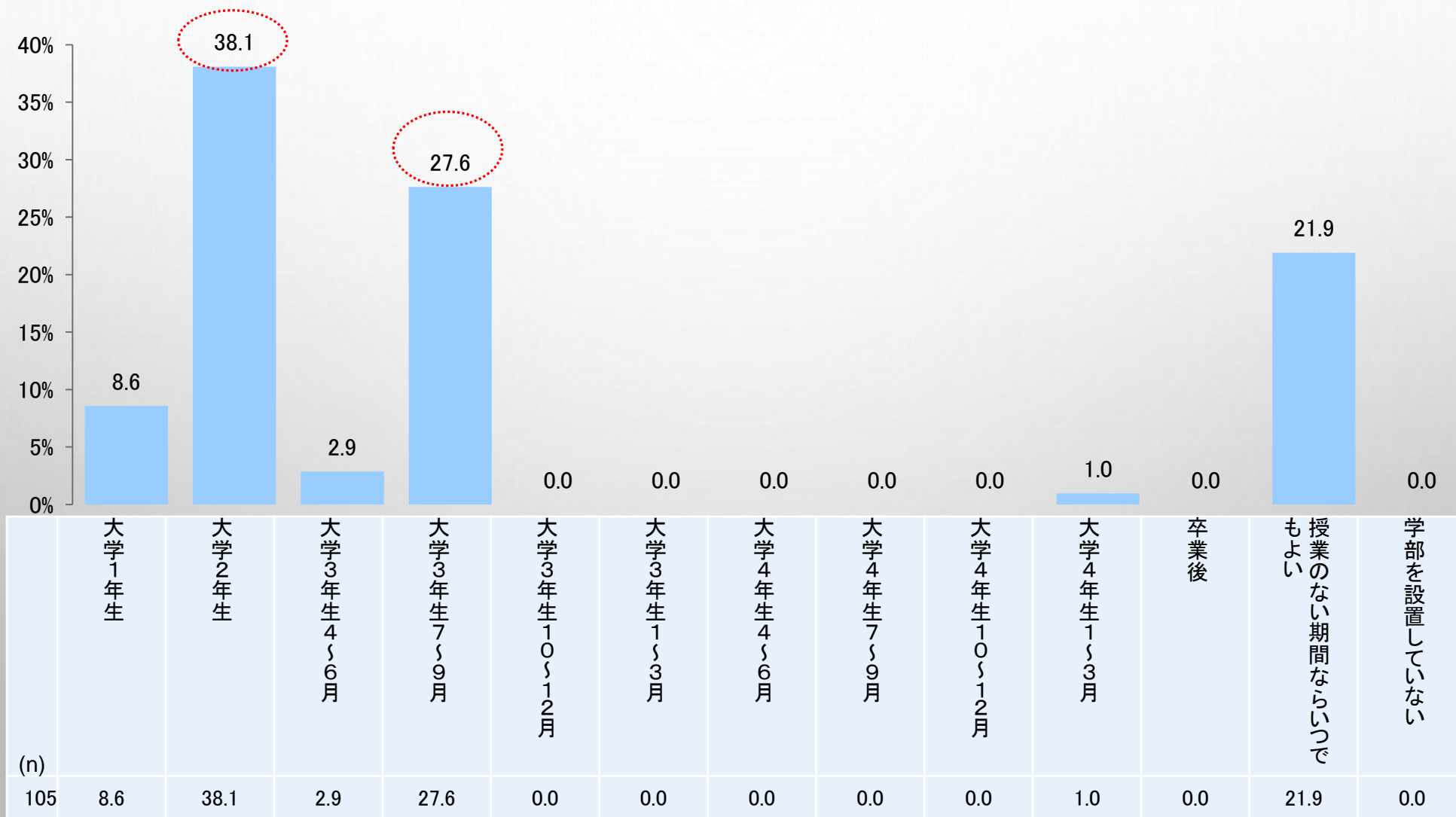
教育課程に位置づけられた5日以上インターンシップを実施、運営する際の課題

- 担当教員や事務担当者等の負担を感じる大学が多くあり、受入企業の開拓に難を抱える大学が多い傾向にある。また、企業の知名度によって希望者が集中してしまっている傾向がある。



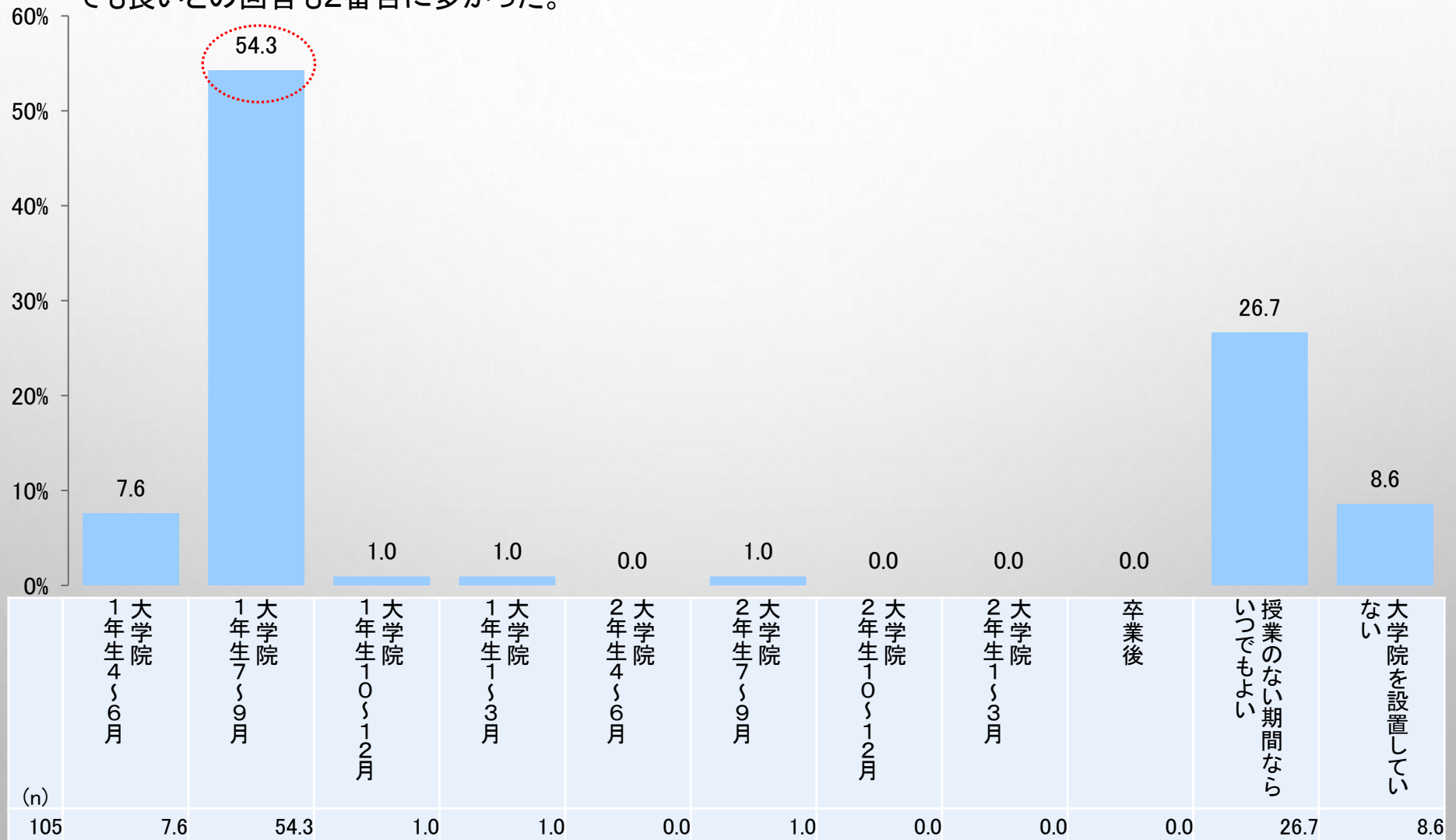
インターンシップの理想的な参加時期(学部段階)

- 大学で学んだ知識等を社会で活かすとともに、今後大学で学ぶ内容を決定するうえでは、インターンシップの参加開始時期は2年生が望ましいと考えるものが多い。次いで、3年次の夏休み期間中など、授業への影響が少ない時期を希望する意見が多かった。一方で、授業のない期間ならいつでも良いとの回答も3番目に多かった。



インターンシップの理想的な参加時期(大学院段階)

- 大学で学んだ知識等を社会で活かすとともに、今後大学で学ぶ内容を決定するうえでインターンシップの参加開始時期は大学院1年生7～9月が望ましいと考えるものが多い。一方で、授業のない期間ならいつでも良いとの回答も2番目に多かった。



1. 学生に対するアンケート調査結果

2. 大学に対するアンケート調査結果

3. まとめ

調査結果から得られるインターンシップの効果に関する示唆のポイント①

1. 学生アンケート

- ① 今回の調査では、学部・大学院及び文理の別において最も長いインターンシップへの参加状況を尋ねたところ、理系の大学院生が最も長期のインターンシップに参加している割合が高かった。(p5)
- ② 学生の参加の目的は、職場の雰囲気や企業の事業内容の理解などを中心にして参加している者が多い(p7)
- ③ インターンシップの参加期間が長いほど、実際の業務に触れられる内容となっている。(p8)
- ④ 参加期間に関わらず、インターンシップに参加することで、業界の理解や絞り込みは進むが、自分の適性や強みを知る上では、長期間のインターンシップの方が影響を与える結果となった。(p9)
- ⑤ インターンシップの参加期間が長くなるほど、学修行動における効果が大きくなる傾向にあり(p11～13)、また、参加期間が長いほど、社会への関心等も高まる傾向にあった。(p14, 15)
- ⑥ 一方で、ボランティアやアルバイト等その他の活動へは、インターンシップによる影響は見られなかった。(p19～21)
- ⑦ インターンシップの期間は、就職活動へのイメージも大きく変更する傾向があった。(p22)

調査結果から得られるインターンシップの効果に関する示唆のポイント②

2. 大学アンケート

- ①大学では、就職に関連して実施される企業主催のインターンシップの把握は困難ではあるものの、全体的には、参加日数が増加するほど、影響が出るように認識している。(p33～44)
- ②インターンシップを教育課程に位置づけるためには専任職員を配置するなどし、科目の担当教員や・事務担当者等の負担に配慮することが望まれる(p45, 46)。
- ③適切な実施時期については、インターンシップが学修行動に与える影響も考慮して、学部2年次や修士1年次など低学年での実施を希望する割合が高かった(p47, 48)。